

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期	教室名	大阪ハイテク PCルーム
担 当 教 員	BSC	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
この授業では、学生がコンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。						
《成績評価の方法と基準》						
出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
イーラーニングテキスト 対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。						
《授業外における学習方法》						
自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。 欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。						
《履修に当たっての留意点》						
出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	PowerPointを使用し、紙芝居を作成することができる(1)	紙芝居作成1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	紙芝居を作成			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	PowerPointを使用し、紙芝居を作成することができる(2)	紙芝居作成2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	紙芝居を作成			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	Wordの機能を使用し、保育だよりを作成することができる(1)	保育便り・学科新聞作成1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	保育だよりを作成			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	Wordの機能を使用し、保育だよりを作成することができる(2)	保育便り・学科新聞作成2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	保育だよりを作成			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる	Excel基礎1 基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	オートフィル/数式の作成/SUM関数/グラフ作成/印刷			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関数を駆使した資料を作成できる	Excel基礎2 数式と関数基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	割合を求める/相対参照と絶対参照/AVERAGE関数/COUNTIF関数/シートの操作		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラフを駆使した資料を作成できる	Excel基礎3 グラフ基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	目的に応じたグラフ作成/グラフのレイアウト/行や列の挿入/グラフの編集		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	Excel基礎で習ったことを実践できる	Excelまとめ	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Excel復習問題の実施		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し活用できる	Excel応用A データベース	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データベースとは/データを並べ替える/フィルター/ウィンドウ枠の固定/大きな表を効率よく印刷する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	応用的な関数を活用できる1	Excel応用B 関数応用1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	RANK.EQ関数/SUMIF関数/日付/時刻関数		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	目的に合ったグラフを選択し、作成することができる	Excel応用D グラフ応用	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	折れ線グラフ/複合グラフ/100%積み上げグラフ/レーダー/スパークライン		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を数値化できる（平均、分散、標準偏差）	初級データサイエンス(統計編)1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均と分散の意味と求め方/標準偏差の意味と求め方		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる1（基本統計量を求める、ヒストグラムの作成）	初級データサイエンス(統計編)2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	分析ツールの使用/基本統計量の算出/度数分布表(ヒストグラム)の作成/標準偏差のグラフ図示		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる2（散布図、相関係数を求める）	初級データサイエンス(統計編)3	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す/相関係数の算出		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育業界の業務で使用するスキルを活用できる	保育業界講座	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	(業界講座)保育業界の業務で使用するスキル		

令和5 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	法学(日本国憲法)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生(夜間)		学期及び曜時限	前期 水曜6限	教室名	第2合同 教室
担 当 教 員	出嶋陽介	実務経験とその関連資格	大学、専門学校の非常勤講師として法学系科目を講義すると同時に、訪問介護、通所介護、サービス付き高齢者住宅の経営に携わっている。			
《授業科目における学習内容》						
保育士に必要とされる法律的知識、特に日本国憲法を中心とした科目を学ぶことを通じて、人権意識を高めることを目的としている。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
滋慶教育科学研究所『福祉と法学・法教育』						
《授業外における学習方法》						
毎回の復習と、新聞やニュースを通じて、法律や裁判に関する情報も得ることを求めたい。						
《履修に当たっての留意点》						
なぜ、ルールが必要なのか、そのルールは何を目的としているのかを意識して、復習すると、理解しやすい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	法規範の種類について理解する。		テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理	
	各コマにおける授業予定	日本法の種類と性質についての講義(配布プリント)				
第2回	授業を通じての到達目標	日本国憲法の基本原理について理解する。		テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理	
	各コマにおける授業予定	近代人権宣言から日本国憲法までの歴史と原理についての講義(テキスト44～45ページ及び配布プリント)				
第3回	授業を通じての到達目標	日本国憲法の基本的人権(総論)について理解する。		テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理	
	各コマにおける授業予定	人権総論として、人権の種類、性質、役割についての講義(テキスト47ページ及び配布プリント)				
第4回	授業を通じての到達目標	日本国憲法の基本的人権(各論)について理解する。		テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理	
	各コマにおける授業予定	幸福追求権と信教の自由についての講義(テキスト48ページ及び配布プリント)				
第5回	授業を通じての到達目標	日本国憲法の基本的人権(各論)について理解する。		テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理	
	各コマにおける授業予定	表現の自由と社会権についての講義(テキスト48～50ページ及び配布プリント)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本国憲法の基本的人権(各論)について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	人身の自由についての講義(テキスト50ページ及び配布プリント)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本国憲法の統治機構について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	統治機構についての講義(配布プリントのみ)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	刑法について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	犯罪と刑罰についての講義(配布プリントのみ)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	民法(法律上の能力)について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	民法総則についての講義(テキスト21ページ及び配布プリント)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	民法(契約総論)について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	民法(債権)についての講義(テキスト76～81ページ及び配布プリント)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	民法(契約各論)について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	民法(債権)についての講義(テキスト76～81ページ及び配布プリント)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	民法(損害賠償)について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	民法(不法行為)についての講義(テキスト72～75ページ及び配布プリント)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	民法(婚姻・離婚)について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	民法(家族)についての講義(テキスト4～9ページ及び配布プリント)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	民法(相続)について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	民法(相続)についての講義(テキスト10～15ページ及び配布プリント)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	防止法三法について理解する。	テキスト及び配布プリント	テキスト該当部分の予習および講義終了時に指示した課題の処理
		各コマにおける授業予定	児童虐待防止法、高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法についての講義(テキスト40～41ページ及び配布プリント)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	コミュニケーション英語 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 水曜6限	教室名	合同301教室
担 当 教 員	ILC講師	実務経験と その関連資格	英語教授に関する資格を保持し、基礎英語や医療英語の教授に関わる。			
《授業科目における学習内容》						
主に高校時代に既に学んだ英語の文法や語彙に関する知識の復習と、ネイティブ講師とのスピーキングやリスニング練習を通じ、日常の様々な場面において自分の伝えたいことを自分の言葉で表現する方法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験70%、平常点30%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
「Speak Now 1」 Jack C. Richards/ David Bohlke, Oxford University Press						
《授業外における学習方法》						
授業を受けるにあたり、中学と高校の英語の復習をしておきましょう。 オンラインでの学習(リスニング、文法など)が可能です。						
《履修に当たっての留意点》						
受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	初対面の相手に対し、適切な挨拶ができるようになる	Speak Now	中学・高校までの英語の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	イントロダクション、プレテスト L.1 初対面のあいさつ～お別れまでの会話			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分のこと、相手のことを英語で述べられるようになる	Speak Now	教科書L.2,3を事前に読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	L.2 & 3 自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答え			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	興味のあること・ないことについて述べられるようになる	Speak Now	教科書L.5を事前に読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	L.5 好き・嫌い等の好みについて話す			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	好きなもの、趣味について会話ができるようになる	Speak Now	教科書L.6を事前に読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	L.6 お気に入りの音楽、映画、スポーツについて話す			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分の意思を相手に伝えられるようになる	Speak Now	教科書L.8を事前に読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	L.8 意見を尋ねる/意見を述べる。お誘いを受けた際の返答の仕方			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族など、周りの人間を紹介できるようになる	Speak Now	教科書L.9を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.9 自分の家族について話す		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	周りの人間、自分の性格を伝えられるようになる	Speak Now	教科書L.10を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.10 家族や性格について話す		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ファッションについて話し、相手のファッションについて褒めることができるようになる。	Speak Now	教科書L.11を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.11 人を褒める、褒められた際の会話表現。(衣服など)着ているものに関して述べる。中間試験前の復習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ファッションについて話し、相手のファッションについて褒めることができるようになる。	Speak Now	教科書L.12を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.12 人を褒める、褒められた際の会話表現(衣服など)着ているものに関して述べる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日付や時間などの数字を用いた会話ができるようになる	Speak Now	教科書L.7を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.7 月、日付、曜日、時間について表現する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日々の習慣について伝えられるようになる	Speak Now	教科書L.13を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.13 自分の日々の習慣について話す		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	他人の生活について尋ね、会話ができるようになる	Speak Now	教科書L.14を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.14 他の人の生活習慣について質問をする		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	予定について述べられるようになる	Speak Now	教科書L.15を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.15 自分や他人の習慣や予定について順序立てて説明する、質問する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	イベントやスケジュールについて会話し、予定を立てられるようになる	Speak Now	教科書L.16を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L.16 イベントの予定やスケジュールに関して説明する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学期末試験の復習が自宅でもできるようになる	Speak Now	教科書(学んだ範囲)の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	学期末・総復習を行う。		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	コミュニケーション技法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 土曜日1限	教室名	合同301教室
担 当 教 員	石山 千恵子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
社会人として必要なコミュニケーションスキルとマインドを養い、行動や態度・心が表現できるようにする						
《成績評価の方法と基準》						
テスト40%、出席率20%、平常点10%(授業中の態度)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
コミュニケーションスキルアップ検定・ミニプリント						
《授業外における学習方法》						
宿題・ミニテスト問題						
《履修に当たっての留意点》						
まずは受講者同士でコミュニケーションがどれくらいとれるか、ゲーム感覚で実施						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションとはを理解することができる。	コミュニケーションスキルアップ検定		
		各コマにおける授業予定	人とコミュニケーション			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本的対話スキルを学ぶことができる。	コミュニケーションスキルアップ検定		
		各コマにおける授業予定	1対1の会話の重要性、グループでの会話の必要性			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	①自己表現スキルを学ぶことができる。	コミュニケーションスキルアップ検定		
		各コマにおける授業予定	人間関係を円滑にする表現技術			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	②自己表現スキルを学び実践することができる。	コミュニケーションスキルアップ検定		
		各コマにおける授業予定	仕事上で必要とされる表現技術			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	③自己表現スキルについてトラブルのもととなる感情への対処を学ぶことができる。	コミュニケーションスキルアップ検定		
		各コマにおける授業予定	アングーマネジメント(トラブルのもととなる感情への対処)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	①社会的スキルを学ぶことができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	基本的な社会的スキル		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	②社会的スキルを学び実践することができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	社会的スキルの実践(1) 挨拶・敬語		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	③社会的スキルを学び実践することができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	社会的スキルの実践 電話対応・携帯電話		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	④社会的スキルを学び実践することができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	社会人スキルの基本と対人行動における実践・接客・訪問・謝罪		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	⑤社会的スキルを学び文章表現へと繋げることができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	社内文書・社外文書の書き方、手紙		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	⑥社会的スキルを学び文章表現へと繋げることができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	メール、SNS、FAX		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	①サービスマインドを学ぶことができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	サービスマインドとは サービスの心得		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	②サービスマインドを学び実践することができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	サービスの対象者・サービスの姿勢		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	③サービスの基本要素を学び実践することができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	人・環境・プロセス		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本授業で学んだコミュニケーションスキルやサービスマインドについて学びを深めることができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	
		各コマにおける授業予定	まとめ、復習		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	前期 木曜6,7限	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担 当 教 員	BSC	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
この授業では、学生がコンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。						
《成績評価の方法と基準》						
出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
イーラーニングテキスト 対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。						
《授業外における学習方法》						
自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。 欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。						
《履修に当たっての留意点》						
出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる	computer career training入門1		タイピング練習をすることで予習復習を行う。
		各コマにおける授業予定	CCT講座を受講する意義、eラーニングテキストのログイン、受講時の注意点等、ICT活用に関するアンケート			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる	computer career training入門2		イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	インターネットの情報を理解し、かつ、安全にルールに従ったインターネット利用ができる知識や能力を身につける タイピングを学ぶ意義、タイピングの基礎			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	AI(人工知能)に関する正しい情報や知識を身に着け、適正かつ有効に活用できる	AIRテラシー		イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会でのAI活用事例、AIでできること・できないこと、画像認識体験、AIの欠点や問題点、ディープラーニングの仕組み			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	Officeの基本操作ができる	computer career training入門3		イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Officeの共通操作 基本操作(Word・Excel)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる	Word基礎1 基本操作		イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ビジネス文書とは/ページ設定/インデント/箇条書きと段落番号/均等割り付け/表の作成			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	画像や図形を駆使した文書を作成できる	Word基礎2 画像や図形	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	図形や画像を駆使した文書/画像の編集/テキストボックス/Excelグラフの貼り付け/図形の編集		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	表を駆使した文書を作ることができる	Word基礎3 表の作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	表を駆使した文書/表の基本/複雑な表の作成/表の編集		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	Word基礎で習ったことを実践できる	Wordまとめ	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Word復習問題の実施		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	プレゼンテーションソフトの基本操作ができる	PowerPoint1 基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	テーマとバリエーション/プレースホルダー/箇条書きのレベル変更/スライド/ノートを作成		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	図形や画像を活用したスライドを作成できる	PowerPoint2 表現力を上げる	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ワードアート/画像の挿入/テキストボックス/図形作成/図形の調整/削除		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	スライドに動きを付け、全てのスライドを完成できる	PowerPoint3 動きを付ける	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	画面切り替え効果の設定/アニメーション効果の設定/スライドショー/印刷/リハーサル		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	作成したスライドを使って発表できる(1)	PowerPoint4 発表1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発表/評価		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	PowerPoint基礎で習ったことを実践できる	PowerPointまとめ	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	PowerPoint復習問題の実施		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	iPadを活用してさまざまな操作ができる	iPad活用	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「OneDrive」アプリのダウンロード、Word操作練習（編集記号表示・文字選択・表操作・図形の選択・グラフコピーなど）、スキャナー機能、ディクテーション（音声認識機能）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	Wordの機能を利用して学科ニュース(新聞)を作成することができる	学科ニュース作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	学科ニュース(新聞)を作成		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	体育実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	後期 火曜日6限	教室名	体育室
担 当 教 員	原 裕 昭	実務経験と その関連資格	小学校教諭一種免許、中学・高校保健体育一種免許保持。幼児体育に関する論文の執筆。高等学校での実務経験有り。			
《授業科目における学習内容》						
様々な運動遊びを実践しその指導法を実践することができる。						
《成績評価の方法と基準》						
実習実技点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
特になし。必要時に資料を配布する。						
《授業外における学習方法》						
授業内容を実践し活かすこと。						
《履修に当たっての留意点》						
学校指定の体操服とシューズを着用し、授業開始までに更衣を済ませておくこと。 また、腕時計やピアス、ネックレスなどの装飾品は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、すべて取り外すこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	本講義の進め方について理解することができる。		配布資料	授業内容を復習し次回 の授業に備えること。	
	各コマに おける 授業予定	オリエンテーション				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	体ほぐし運動を実践し、説明することができる。		配布資料	授業内容を復習し次回 の授業に備えること。	
	各コマに おける 授業予定	体ほぐし運動				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	体ほぐし運動を実践し、説明することができる。		配布資料	授業内容を復習し次回 の授業に備えること。	
	各コマに おける 授業予定	体ほぐし運動				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	体ほぐし運動を実践し、説明することができる。		配布資料	授業内容を復習し次回 の授業に備えること。	
	各コマに おける 授業予定	体ほぐし運動				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	体づくり運動を実践し、説明することができる。		配布資料	授業内容を復習し次回 の授業に備えること。	
	各コマに おける 授業予定	体づくり運動				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	体づくり運動を実践し、説明することができる。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	体づくり運動		
第7回	授業を通じての到達目標	体づくり運動を実践し、説明することができる。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	体づくり運動		
第8回	授業を通じての到達目標	走動作について実践し、説明することができる。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	走動作の実践		
第9回	授業を通じての到達目標	走動作について実践し、説明することができる。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	走動作の実践		
第10回	授業を通じての到達目標	跳動作について実践し、説明することができる。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	跳動作の実践(縄跳び)		
第11回	授業を通じての到達目標	跳動作について実践し、説明することができる。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	跳動作の実践(縄跳び)		
第12回	授業を通じての到達目標	投動作について実践し、説明することができる。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	投動作の実践		
第13回	授業を通じての到達目標	投動作について実践し、説明することができる。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	投動作の実践		
第14回	授業を通じての到達目標	サッカーを実践し、特性を理解する。	配布資料	授業内容を復習し次回の授業に備えること。
	各コマにおける授業予定	サッカー		
第15回	授業を通じての到達目標	サッカーを実践し、特性を理解する。	配布資料	授業内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	サッカー		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法		講義	
科 目 名	社会的養護 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)		
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 金曜6限	教室名	合同校舎301		
担 当 教 員	赤松 慶子	実務経験とその関連資格	大阪市の学校法人の幼稚園で幼稚園教諭として勤務、担任として保育業務担う。実習指導も行う。主任として、後輩保育士の指導にもあたる。保育士資格と幼稚園教諭免許					
《授業科目における学習内容》								
社会的養護の体系と養護問題の現状や背景を把握し、児童福祉施設の役割と養護の実際について学ぶ。また、児童福祉施設の援助者としての保育士の役割と援助を理解し、その養育観を養うことができる。								
《成績評価の方法と基準》								
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%								
《使用教材(教科書)及び参考図書》								
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・参考図書:保育所保育指針、保育福祉指針など 								
《授業外における学習方法》								
復習として、施設実習に向けた実習指導の内容を含めた、各授業内資料を用いて復習を行う。また、施設実習後は、授業で得た知識を実際に施設実習での体験を関連付けしておく。予習として、幼児や児童の虐待に関する時事ニュースに歓心を持ち、家族や友人などと意見交換を行い、自分の考えをまとめる。								
《履修に当たっての留意点》								
施設や里親のもとで生活する子どもが増えています。今、保育士が真剣に向き合わなければならない課題です。「子どもの最善の利益のために」「すべての子どもを社会全体で育む」の理念をしっかりと理解しましょう。								
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容			
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	私的な子育てと社会的な子育てについて、それぞれ説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 			
		各コマにおける授業予定	社会的養護の基本原則についての講義『社会的養護とは何か』を理解する。					
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会的養護の2つの理念について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第1回授業での配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 			
		各コマにおける授業予定	社会的養護の基本理念・原理についての講義『2つの理念、6つの原理』について理解する。					
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子化にもかかわらず、施設や里親のもとで生活する子どもが増えている理由について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第2回授業での配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第4回の授業開始時に3回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。 			
		各コマにおける授業予定	社会的養護の現状についての講義『児童養護問題の発生背景、対象となる子どもと家庭・地域』について理解する。					
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	太平洋戦争後までの社会的養護の歩みについて簡単に説明できる。わが国が今、抱えている社会的養護の課題について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第3回授業での配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 			
		各コマにおける授業予定	日本における社会的養護の歴史についての講義『太平洋戦争後までの社会的養護の歩み』を理解する。『太平洋戦争後からの社会的養護の歩み』を理解する。					
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利とは、どのような権利を指すのかということを説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第4回授業での配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 			
		各コマにおける授業予定	子どもの権利擁護についての講義『子どもの権利』『わが国の社会的養護現場の子ども達と権利擁護』について理解する。					

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの権利を守るために必要な取り組みや制度について説明できる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第5回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	子どもの権利擁護についての講義② 『子どもの権利擁護の取り組み』について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 社会的養護を实践するうえで欠かせない、法律や省令等は、どのようなものがあるか述べる事ができる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第6回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	社会的養護の体系と実践についての講義 『社会的養護に関わる法律』、『施設養護と家庭養護』のアウトラインについて理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 家庭的養護の推進によるメリットとデメリットについて説明できる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第7回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第9回の授業開始時に4～8回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	社会的養護の体系と実践についての講義② 『社会的養護の課程』、『社会的養護の今後』のアウトラインについて理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 乳児院、児童養護施設では、どのような子ども達が生活しているのか、説明できる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第8回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	養護系施設についての講義① 『乳児院』、『児童養護施設』の設置目的、概要、支援内容、今後の課題について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域で自立した生活を営めなくなることは、また、他者とのかわりに困難を抱えることは、どのようなことであるのか説明できる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第9回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	養護系施設についての講義② 『母子生活支援施設』、『児童心理治療施設』の設置目的、概要、支援内容、今後の課題について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 自立支援とは、どのような支援を指すのか説明できる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第10回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第12回の授業開始時に9～11回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	養護系施設についての講義③ 『児童自立支援施設』、『自立援助ホーム』、『児童家庭支援センター』の設置目的、概要、支援内容、今後の課題について理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 家庭的養護の推進によるメリットとデメリットについて自分の意見を持つことができる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第11回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	家庭養護についての講義 『里親』、『ファミリーホーム』、の概要、特徴、今後の課題について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 障がいのある子どもたちの施設について説明することができる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第12回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	障害系施設についての講義 『障害児入所施設』、『児童発達支援センター』の目的、概要、今後の課題について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもにとっての「良い職員」の具体像を思い描くことができる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・第13回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第15回の授業開始時に12～14回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理についての講義 『児童福祉施設で働く職員』の職種、業務内容、役割、職業倫理について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 社会的養護における支援のあり方について、自分の考えを述べる事ができる。	・教科書 『みらい×子どもの福祉ブックス社会的養護』 ・配布資料 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・これまでの授業を振り返り、しっかりと復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	社会的養護とソーシャルワークについての講義 『社会的養護におけるソーシャルワークの必要性』、『ソーシャルワークと自立支援』について理解する。 また、全15回の振り返りを実施する。		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	体育講義		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 集中	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	織田 修輔	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>幼児の発育発達を学び、その運動方法を理解することができる。 また、様々な運動遊びを実施しその様式と指導方法を理解することができる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
出席点(20%)・平常点(10%)・試験(70%)から授業の理解度を総合で示す。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
パワーポイント、配布資料						
《授業外における学習方法》						
本講義では、正しい運動指導を実施できる保育士を目指すことはもとより幼児の発育発達の特徴への理解を求める。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	本講義の進め方を理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	ガイダンス			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の必要性和健康との関わりについて学ぶことができる(1)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	健康を阻害する環境(なぜ、運動が必要なのか?)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の必要性和健康との関わりについて学ぶことができる(2)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	健康を阻害する環境(時代背景から)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋肉の種類を把握し、それぞれの名前と機能について理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	運動と筋肉			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の仕組みと運動との関係性について理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	運動と神経系			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳のと運動との関係性について理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と脳		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸の仕組みについて理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と呼吸		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動が及ぼす骨強度への貢献を理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と骨格・体格		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温調節機能と運動が及ぼす影響について理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と体温		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の循環と運動との関わりについて学ぶことが出来る	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と循環		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児の発育と発達について理解することができる(1)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	幼児の発育と発達について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児の発育と発達についてを理解することができる(2)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	幼児の発育と発達について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児の運動指針を理解することができる(1)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	幼児の運動指針に関して		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児の運動指針を理解することができる(2)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	幼児の運動指針に関して		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	本講義を通して幼児における生理的学びを深めることができる	・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	人体の構造と機能		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 土曜4・5限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	倉田省吾	実務経験とその関連資格	診療放射線技師として大阪市内の医院で勤務。 大学病院から市中病院・検診センターなどでも勤務 診療放射線技師免許所持。			
《授業科目における学習内容》						
体の中の内臓器のしくみや存在意義、そして子供のころに発症しやすい各臓器の病についての知識を学び、園児たちだけでなく、親への健康アドバイスができるようになる						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験70%、出席点20%、平常点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:「解剖生理学」永岡書店						
《授業外における学習方法》						
主として復習からの学習を行い、各授業の冒頭で前回の内容分からの確認テストを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
小さな子どもは自分の伝えたい体の状態を正確に伝えることができない。授業で学んだ体の構造や機能と関連する病の知識をもとに伝えたい内容を把握できることと園の衛生面や子どもが健康であることを如何にサポートできる存在になれるかは働く保育士の心がけ一つです。授業中からその意識をもって臨むこと!						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝臓の働きを4つあげることが出来る	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく	
		各コマにおける授業予定	肝臓が持つ消化の能力+その他人体へ行っているサポート内容を知る			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	膵臓の働きを理解した上で、インスリンの人体における影響を言える	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく	
		各コマにおける授業予定	ランゲルハンス島からの分泌物で血糖値が調整される内容を理解する			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	三大栄養素が体に吸収されるメカニズムを言うことが出来る	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく	
		各コマにおける授業予定	炭水化物、タンパク質、脂質がどのような形で吸収されるかを理解する			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓が行う4つのうち2つの仕事を例題を混ぜて説明できる	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく	
		各コマにおける授業予定	老廃物を出す、血圧調節という仕事を理解する			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓が行う4つのうち2つの仕事を例題を混ぜて説明できる	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく	
		各コマにおける授業予定	血液をつくる補助、pHを調節という仕事を理解する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病の種類、その違い、対処などを説明できる	教科書:解剖生理学と配布資料	事前に指定されたページに目を通しておく
		各コマにおける授業予定	小児型糖尿病を中心に1型と2型の内容が説明できるようになる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	体で生成されるホルモンの働きについて説明できる(第一回)	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく
		各コマにおける授業予定	ホルモンの代表的な名前とそれぞれの働きを言える		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	体で生成されるホルモンの働きについて説明できる(第二回)	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく
		各コマにおける授業予定	ホルモンの代表的な名前とそれぞれの働きを言える		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	目の構造とはたらきを理解し、視力というものを説明できる	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく
		各コマにおける授業予定	目に光が入ってからの流れと色の識別のシステムを理解する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	音を感じる耳のしくみと傾きを感じるしくみを説明できる	教科書:解剖生理学 配布資料	事前に指定されたページに目を通しておく
		各コマにおける授業予定	音の伝わりと耳の奥にあるバランスを司る器官の働きを理解する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	嗅覚・味覚の理解と触覚を司る器官やそのシステムの説明ができる	教科書:解剖生理学	事前に指定されたページに目を通しておく
		各コマにおける授業予定	皮膚感覚・味蕾、嗅細胞の理解をする		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間に寄生する生物とそれが引き起こす病気を理解し、対策を言えるようになる(第一回)	配布資料	事前に指定されたページに目を通しておく
		各コマにおける授業予定	人に寄生する生物の名前を覚え、それぞれの特徴と対策法を理解する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間に寄生する生物とそれが引き起こす病気を理解し、対策を言えるようになる(第二回)	配布資料	前回の資料に目を通しておく
		各コマにおける授業予定	人に寄生する生物の名前を覚え、それぞれの特徴と対策法を理解する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間が感染しやすいウイルス性の病気に関する特徴と対策を説明できる(第一回)	配布資料	前回の資料に目を通しておく
		各コマにおける授業予定	インフルエンザ、風邪、夏風邪ウイルスなど季節でかかりやすい病気への理解をする		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間が感染しやすいウイルス性の病気に関する特徴と対策を説明できる(第二回)	配布資料	前回の資料に目を通しておく
		各コマにおける授業予定	消化器に影響を及ぼすO157やノロウイルスなどへの理解をする		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	保育原理	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生	学期及び曜時限	前期 金曜日7限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	山田 遥	実務経験と その関連資格	吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許		

《授業科目における学習内容》

保育について、保育制度、内容、方法、政策、歴史など基本的な学び、幅広い視野を持ち、また、保育の基本である子どもの遊び、生活について学び、幼児の育ちを支援する保育の原理・原則を説明できるようになる。さらに、現代の子育て支援ニーズ、対応の視点から、発展的な視点と保育士の仕事の位置づけ、求められていること、実践内容が出来る。またグループワークも取り入れ、自分なりの保育観を確立、保育士としての自己実現できるようになる。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験 70%
2. 出席点 20%
3. 平常点(授業態度・課題提出等) 10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材:保育原理(中央法規・みらい)

《授業外における学習方法》

予習として、授業時に指示した次回の内容について保育指針、解説書を読む。保育や乳幼児や子どもを取り巻く時事ニュースに関心を持ってみる。復習として、再度、授業で学んだ部分の保育指針と解説書を読む。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。授業内容をより具体的に理解し、実践に結びつけるために、現場経験の機会を作る

《履修に当たっての留意点》

学ぶすべての科目がそれぞれ別個のものではなく、根底は一つの水脈でつながっている事を保育原理の授業を通して学んでくれる事を期待します。この授業を学んで、保育士としてより深い楽しみ、やりがい、喜び、大きな自己実現につなげる機会としましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	保育の意義や目的を説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、保育とは何か、理念と概念を理解する。子どもを取り巻く社会の変化を理解する。		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	保育所の公的施設としての社会的責任について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育が果たす社会的役割と保育に求められている責任について理解する。子育て状況の問題点を理解する。		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	保育所、幼稚園、認定子ども園の成り立ちを説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	法律に基づき制度として位置づけられた保育の公的な営みを理解する。子ども・子育て支援新制度による保育の変化を知る。		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	保育所保育指針の方向性と構成について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育所保育指針に基づく内容や制度的位置づけについて理解する。		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	乳児保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育の基本(養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育)を事例を基に理解する		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 1歳以上3歳未満保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	1歳以上3歳未満の保育の基本(養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育)を事例を基に理解する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 3歳以上児保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	3歳以上児の保育の基本(養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育)を事例を基に理解する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 保育の過程のための、子どもの発達の捉え方について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育における子ども理解の視点と方法について、理解する(子どもを見るまなざしと行為の意味を理解する)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 自分の子ども観、発達観、保育観を説明することが出来る。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	子ども観・発達観・保育観とはなにかを考察する。子ども観と保育の内容・方法を身につける。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 子ども観、発達観、保育観から、保育の目標と方法について説明できる	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育の目標・方法・環境について、さらに深く理解する(子ども観・発達観・保育観から考える)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 子育て支援のニーズに合わせた、相談支援を説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	子育て家庭の困難状況、現在の問題点を理解し子育て支援のニーズを理解する。相談支援の基本原則を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 海外の保育思想や歴史を説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	海外の保育思想と歴史とつながる(子どもの発見という歴史的転換について把握し、現代における子ども中心の保育教育思想の発展を学ぶ)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 戦後の保育から、現代の保育の原点にについて説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	日本の保育思想と歴史とつながる(古くから伝わる日本人の保育観を見直すと共に戦後の保育と現代の保育のつながりを考える)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 保育者に求められる「専門性」について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	「保育の専門家への道」とつながる。これからの保育者論について知る		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本の保育の現状と課題について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	既習全学習(資料配布等)を振り返り、しっかりと復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	日本における保育の現状と課題について理解し、子ども・子育て支援新制度の改革の実態を知る。		

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	人体の構造と機能		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 土曜4、5限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	倉田省吾	実務経験と その関連資格	診療放射線技師として大阪市内の医院で勤務。 大学病院から市中病院・検診センターなどでも勤務 診療放射線技師免許所持。			
《授業科目における学習内容》						
体の構造や機能を理解し、子どもの発達過程について説明できる						
《成績評価の方法と基準》						
試験:70% 出席率:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:『「なぜ?」からはじまる解剖生理学』ナツメ社						
《授業外における学習方法》						
教科書および授業で配布した資料を用いて復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
人体について私たち大人のからだについて学習し、子どものからだの発達について学習することで、こどもの発達過程に応じた保育ができるように健康相談等が保護者にもできるようになるようにしっかり勉強していきましょう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	解剖生理学について説明できる。		・配布資料		
	各コマに おける 授業予定	解剖学と生理学がどういうものかを理解したうえで、本科目でどのように学習して保育に生かすかを考える				
第2回	授業を 通じての 到達目標	細胞や組織といった人体の基本単位について理解する		・教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 ・配布資料	・教科書と授業資料を用いて復習する。	
	各コマに おける 授業予定	細胞のつくりや遺伝の仕組みについて学習する				
第3回	授業を 通じての 到達目標	骨の役割と名称を理解する		・教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 ・配布資料	・教科書と授業資料を用いて復習する。	
	各コマに おける 授業予定	骨の役割と名称について学習する				
第4回	授業を 通じての 到達目標	筋肉の役割と種類について理解する		・教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 ・配布資料	・教科書と授業資料を用いて復習する。	
	各コマに おける 授業予定	筋肉の役割と種類について学習する				
第5回	授業を 通じての 到達目標	脳の役割を理解する		・教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 ・配布資料	・教科書と授業資料を用いて復習する。	
	各コマに おける 授業予定	脳の機能・役割について学習する				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経のつながりと役割を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	脳から各臓器、感覚器官につながる神経の役割について学習する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の構造を理解し、血液循環の流れを説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	心臓の構造や、発生の過程、血液循環について学習する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液とリンパ液が運ぶものについて説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	血液とリンパ液がそれぞれなにか、そしてそれらが何を運んでいて生命活動へどのように寄与するかを学習する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚器から得た情報の処理し、身体が動くまでの順序が説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	ヒトにおける情報処理と動作までの流れと反射について学習する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化の仕組み、消化器について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	消化器官について、仕組みについて学習する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化の仕組み、消化器について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	消化器官について、仕組みについて学習する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸のしくみについて説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	肺の解剖や呼吸の仕組みについて学習する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿の排泄について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	腎臓のつくりや泌尿器系について学習する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホルモンについて説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	内分泌系の器官や役割について学習する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	各生殖器の発達について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「なぜ?」からはじまる解剖生理学 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と授業資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	各生殖器の役割・発達について学習する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	保育の計画と評価		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 木曜7限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	清水 靖子	実務経験とその関連資格	八尾市にある、社会福祉法人の保育園に保育士として勤務。主業務は保育士として働き、担任・副担任をする。また子どもの保育や実習生の指導を行っていた。その後、大阪市にある学校法人の幼稚園に幼稚園教諭として勤務。主業務は幼稚園教諭として担任を担当し、子どもの教育を行う。保育士と幼稚園教諭免許			
《授業科目における学習内容》						
<p>全体的な計画と指導計画の作成における意義と方法を理解する。また、実際の保育場面を想定した指導案の立案を行い、発表をすることで、習得することができる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>・提出物、指導案発表 70% ・出席評価点 20% ・平常評価点 10%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>・教科書『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』 ・参考図書『保育所保育指針』</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>指導計画の立案に関しては、試行錯誤を重ねながら変更していきます。そのため、提出期限をしっかりと守ることが必須となるので、普段の学校生活から締め切りの機嫌を守るよう、取り組む。また、発表の際は、前に出て元気な声で発表となるので、他の授業で発表等あれば、積極的取り組み、前に出て何かをするということに慣れるようにする。また、発表をする前には、シミュレーションを行うことが成功の近道になる。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>指導計画を発表する際、他の学生は子ども役になり、参加します。そうすることで、予想外の子どもの姿に対応や、子ども役をするからこそ、どこがわかりにくいかなど気付くきっかけとなります。積極的に参加し、習得できるよう取り組んでいきましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育計画の意義を理解することができる。	・教科書		・保育所保育指針の5領域を読み復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・オリエンテーション ・保育計画の意義と必要性			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	指導計画の内容を考え、ポイントに気を付けて記入し、わからないところはすぐに質問をし、積極的に取り組むことができるようになる。	・配布プリント		・指導計画立案をするうえで、何をするか決定していない学生は、次の授業までに探しておく。
		各コマにおける授業予定	・保育指導計画の書き方とポイント ・指導計画立案			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	配布プリントやテキストを参考にし、予想される子どもの姿を考えながら、立案を立てることができる。	・配布プリント		・図書室を利用し、保育雑誌等を参考にし、設定保育の準備をする。
		各コマにおける授業予定	・指導計画立案			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	指導計画の種類と意味とつながりを理解できるようになる。	・配布プリント		・教科書の指定されたところを事前に読んでおく。
		各コマにおける授業予定	・指導計画(年間、月案、週案、日案)の理解			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	全体構造を理解し、1つずつの過程が大切である事を理解し、説明をすることが出来る。	・配布プリント		・授業終了時に提出する指導計画を完成させておく。
		各コマにおける授業予定	・計画、実践、省察、評価、改善の過程について、全体構造を理解 ・指導計画提出			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	季節の留意点を基に、予想される子どもの姿や指導計画を考えることができるようになる。	・配布プリント	・今回のプリントを読み直し、復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・春、夏の指導計画立案をするうえでの留意点		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	季節の留意点を基に、予想される子どもの姿や指導計画を考えることができるようになる。	・配布プリント	・今回のプリントを読み直し、復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・秋、冬の指導計画立案をするうえでの留意点		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	発表者: 気付き、改善点が見つかり次に活かそうと取り組む。 他学生: 子ども目線からの気付きを見つけることができる。	・配布プリント	・指導案の内容が、よりよいものになるよう、各自見直し改善に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・指導計画発表 ・評価と反省		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	発表者: 気付き、改善点が見つかり次に活かそうと取り組む。 他学生: 子ども目線からの気付きを見つけることができる。	・配布プリント	・指導案の内容が、よりよいものになるよう、各自見直し改善に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・指導計画発表 ・評価と反省		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	発表者: 気付き、改善点が見つかり次に活かそうと取り組む。 他学生: 子ども目線からの気付きを見つけることができる。	・配布プリント	・指導案の内容が、よりよいものになるよう、各自見直し改善に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・指導計画発表 ・評価と反省		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	発表者: 気付き、改善点が見つかり次に活かそうと取り組む。 他学生: 子ども目線からの気付きを見つけることができる。	・配布プリント	・指導案の内容が、よりよいものになるよう、各自見直し改善に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・指導計画発表 ・評価と反省		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	発表者: 気付き、改善点が見つかり次に活かそうと取り組む。 他学生: 子ども目線からの気付きを見つけることができる。	・配布プリント	・指導案の内容が、よりよいものになるよう、各自見直し改善に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・指導計画発表 ・評価と反省		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	発表者: 気付き、改善点が見つかり次に活かそうと取り組む。 他学生: 子ども目線からの気付きを見つけることができる。	・配布プリント	・指導案の内容が、よりよいものになるよう、各自見直し改善に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・指導計画発表 ・評価と反省		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	発表者: 気付き、改善点が見つかり次に活かそうと取り組む。 他学生: 子ども目線からの気付きを見つけることができる。	・配布プリント	・指導案の内容が、よりよいものになるよう、各自見直し改善に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・指導計画発表 ・評価と反省		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習に活かせそうと意欲が高まり、各自、大切と思うところをメモにとり、習得に励む。	・配布プリント	・実習までに、どんなことがしたいか、数個ほど案を考えておく。
		各コマにおける授業予定	・指導計画発表 ・まとめ、総評		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	言葉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	長谷川 祥	実務経験とその関連資格	保育教諭3年、特別支援学校講師2年 保育士・特別支援学校教諭1種免許状・修士課程			
《授業科目における学習内容》						
子どもの発達過程に応じた絵本や紙芝居、ペープサートやエプロンシアターといった「児童文化財」に触れ、読み方や演じ方、導入方法を研究・制作・演習し、実習や保育の現場での実践出来るようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
授業への出席状況 20%、学期末試験 70%、ペープサート実技、グループワーク 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
保育所保育指針、保育所保育指針解説、適宜資料を配布します						
《授業外における学習方法》						
子どもの姿や子どもの言葉に関心を持ち、積極的に観察する。 絵本に数多く触れ、読み方や導入方法などについて自分なりに考える機会をつくる。						
《履修に当たっての留意点》						
保育者からの言葉は楽しさや嬉しさ、喜び等子どもの中で様々な想いへと変化する発達にも大きな力を与えます。子どもに良好な言語環境を整えられるよう「聴く」「話す」「読む」「書く」といった自分自身の言語環境や感性、相手に共感する想いを磨いて欲しいと思います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	ワークの中で子どもの言葉や保育者の言葉に触れ、今後自分が使いたい言葉や言葉の持つ力について説明できる	配布資料	子どもの言葉や姿、保育者の言葉や姿に関心を持ち、実習の際などに積極的に観察すること。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 「言葉」とはなにか ワーク「今までに出会った言葉」			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	ワークの中で子どもの言葉や保育者の言葉に触れ、今後自分が使いたい言葉や言葉の持つ力について説明できる	配布資料	子どもの言葉や姿、保育者の言葉や姿に関心を持ち、実習の際などに積極的に観察すること。	
		各コマにおける授業予定	ワーク「今までに出会った言葉」			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	領域「言葉」のねらい・内容について理解し、説明できるようになる。	配布資料	子どもの言葉の発達について様々な資料を見ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	領域「言葉」のねらい、内容			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児の言葉の発達を学び、保育の内容を考え実践することができるようになる。	配布資料	子どもの言葉の発達、子どもの遊びについて様々な資料を見ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	乳幼児の遊びの計画、実践			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	0・1・2歳児の言葉の発達について学び、子どもの姿について理解したうえで保育の中での関わり方について説明できる	配布資料	子どもの発達段階について、調べたり様々な資料を見て学んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	おおむね3歳までの言葉の育ち			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 3・4歳児の言葉の発達について学び、子どもの姿を理解したうえで保育の中での関わり方について説明できる	配布資料	子どもの発達段階について、調べたり様々な資料を見て学ぶこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね5歳までの言葉の育ち		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標 5.6歳児の言葉の発達について学び、子どもの姿を理解したうえで保育の中での関わり方について説明できる	配布資料	子どもの発達段階について、調べたり様々な資料を見て学ぶこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6歳までの言葉の育ち		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標 子どもの言葉に対する感覚を豊かにするため保育士が身に付けておくべきことや、子どもへのかかわり方を理解し、説明できる	配布資料	生活の中で聞く言葉や、絵本、物語などで出会う言葉に意識を向け、素敵だと思う言葉を見つけておくこと。
	各コマにおける授業予定	言葉の美しさ、楽しさ		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標 様々な児童文化財に触れ、年齢に応じた取り入れ方、しくみや作り方を学び、実演できるようになる	配布資料	様々な絵本や物語に触れておくこと。
	各コマにおける授業予定	絵と言葉の豊かな世界を楽しむー絵本とは・紙芝居ー劇や物語を楽しむーエプロンシアター・ペープサートー		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標 児童文化財に触れ、年齢に応じた取り入れ方、しくみや作り方を学び、実践に向けて計画を立てることができるようになる	なし	割り当てられた演習発表時までに、練習を繰り返しておくこと
	各コマにおける授業予定	ペープサート 計画		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標 ペープサートの実演に向けて仲間と協力し、年齢別・状況別に応じた内容で作成、実践を行う方法を身に付ける	なし	割り当てられた演習発表時までに、練習を繰り返しておくこと
	各コマにおける授業予定	ペープサート 作成、練習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 ペープサートの実演に向けて仲間と協力し、年齢別・状況別に応じた内容で作成、実践を行う方法を身に付ける	なし	割り当てられた演習発表時までに、練習を繰り返しておくこと
	各コマにおける授業予定	ペープサート 作成、練習		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標 ペープサートの実演に向けて仲間と協力し、年齢別・状況別に応じた内容で作成、実践を行う方法を身に付ける	なし	割り当てられた演習発表時までに、練習を繰り返しておくこと
	各コマにおける授業予定	ペープサート 作成、練習		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 ペープサートを実演することにより、人前で演じることの経験値を上げ、年齢別・状況別に応じた読み方ができるようになる	なし	割り当てられた演習発表時までに、練習を繰り返しておくこと
	各コマにおける授業予定	ペープサート 発表		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標 ペープサートを実演することにより、人前で演じることの経験値を上げ、年齢別・状況別に応じた読み方ができるようになる	配布資料	これまでの授業を振り返り、自分なりの考えをまとめておくこと
	各コマにおける授業予定	ペープサート 発表 全15回の授業を振り返る		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	保育内容総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 金曜日6限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	清水 靖子	実務経験とその関連資格	八尾市内にある、社会福祉法人の保育園に保育士として勤務。主業務は保育士として働き、担任・副担任をする。また子どもの保育や実習生の指導を行っていた。その後、大阪市内にある学校法人の幼稚園に幼稚園教諭として勤務。主業務は幼稚園教諭として担任を担当し、子どもの教育を行う。保育士と幼稚園教諭免許			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>保育所保育指針の各章のつながりを理解し、保育の全体的な構造を知る。また、保育所保育指針のねらいや内容を基に、子どもの発達や生活に基づき、各領域で関連をもちながら総合的に展開していくことが出来る。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>・科目終了試験 70% ・出席評価点 20% ・平常評価点 10%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>・参考図書『新 基本保育シリーズ⑭ 保育内容総論』 『保育所保育指針』など</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>保育所の役割について理解をするうえで、保育士ができることを考え、保護者や子どものことを思い取り組めるようになる。そのためにも、保育所保育指針を読み、総合的な指導の必要性として理解に努めること。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>現場でも、保育所保育指針が基になり、保育が行われてきています。また、保育指導計画等立案していくうえでも必要です。そのためにも、しっかり復習を行い理解に繋げていきましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	授業の内容を説明できる。	・配布プリント	・保育所の役割を再度復習し、理解に繋げる。	
		各コマにおける授業予定	・オリエンテーション ・保育所の役割			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	養護と教育の一体が保育の特性ということを説明できる。	・配布プリント	・養護と教育の意味を理解し、覚えるようにする。	
		各コマにおける授業予定	・保育内容の理解(養護)			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	養護と教育の一体が切り離せない理由を説明できる。	・配布プリント	・今の保育現状を事前に調べておく。	
		各コマにおける授業予定	・保育内容の理解(教育)			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育所保育指針の歴史的変遷には、社会的背景が即していることを説明できる。	・配布プリント	・発達過程をある程度理解し、答えることができるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	・保育所保育指針の歴史的変遷			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	それぞれの年齢や時期にはふさわしい生活があり、それに合った保育内容や環境が必要だと説明できる。	・配布プリント	・発達特性を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	・乳幼児期の発達特性 ・各年齢期における発達過程			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	先を見越した保育がされていることを説明できる。	・配布プリント	・自分自身の見越した計画を立て、それに沿って取り組めるようにする。
		各コマにおける授業予定	・乳児期における養護と教育の関係性 ・小学校との接続を考えて		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	主体性を尊重する保育の難しさと大切さを知り、説明することができる。	・配布プリント	・次回の授業までに、各自が考える保育環境を考えておく。
		各コマにおける授業予定	・子どもの主体性を尊重するうえでの困難点と留意点		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	環境を通して行う保育の4つの視点を理解し、説明することができる。	・配布プリント	・次回の授業までに、遊びから学びに繋がるものを調べる。
		各コマにおける授業予定	・保育の環境と保育士の役割		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児期は生活そのものが遊びであり、その遊びが成長にとって欠かせない経験ということを説明することができる。	・配布プリント	・今回の授業内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・遊びの必要性 ・遊びの展開		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	人間として成長していくうえで、個と集団としてのかかわりが必要と言うことを説明できる。	・配布プリント	・地域で行なわれているものを考えておく。
		各コマにおける授業予定	・保育所等における個と集団の育ち		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	子育て支援では、家庭だけでなく地域との連携も必要と言うことを説明できる。	・配布プリント	・保護者や家庭を取り巻く地域など、その背景を常に意識しておく。
		各コマにおける授業予定	・家庭や地域等との連携をふまえた保育		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもが小学校に就学するまでに、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことで、小学校教育が円滑に行なわれる事を説明できる。	・配布プリント	・次回の授業までに、アレルギーとその症状を調べておく。
		各コマにおける授業予定	・小学校との連携、接続をふまえた保育		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの気持ちに寄り添うだけでなく、アレルギーの理解、異年齢集団での保育なので、その子どもにあった配慮や援助が必要ということを説明できる。	・配布プリント	・次回の授業までに、発達障害を調べておく。
		各コマにおける授業予定	・長時間保育について ・長時間保育での援助と配慮		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達障害の症状と保育ポイントを説明できる。	・配布プリント	・次回の授業までに、他の国の文化について調べておく。
		各コマにおける授業予定	・障害とは ・発達障害のある子どもの保育ポイント		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	多文化共生を理解し、どのように保育をしないといけないか課題を見つけることができる。	・配布プリント	・今までの授業のプリントを見返し、分からない場合は、質問し解決に繋げる。
		各コマにおける授業予定	・多文化共生の保育 ・外国に対する理解		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	音楽 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 木曜6・7限	教室名	ピアノ室
担 当 教 員	谷 理香・近 眞理	実務経験と その関連資格	ヤマハ音楽教室において、幼児音楽教育全般の指導にあたり、講師の育成に長年携わっていた。大学において、幼児教育学科にて勤務、ピアノ・声楽を主に教えていた。			
《授業科目における学習内容》						
<p>幼児への音楽教育を実践するために不可欠なピアノ実技、声楽、音楽理論を基礎から学ぶ。音符、リズムの理解から始め、各自がスムーズに楽譜が理解できるようにする。ピアノが両手で弾けるようになり、色々なこどもの歌を歌えるようにする。保育現場で使用される様々な歌を弾き歌いができるようになる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
科目実技試験 70% 出席評価 30% 平常評価 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
バイエル教則本 ブルグミュラー25の練習曲 ソナチネアルバムなど。 こどもの歌ベストテン						
《授業外における学習方法》						
予習、復習として、課題曲を自己練習をし、ピアノに慣れ、練習をしておくことが望ましい。						
《履修に当たっての留意点》						
音楽教育は幼児の発達、発育にとっても重要な役割を果たしています。ピアノ初心者も経験者も楽しんでピアノや歌のスキルを身につけていきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期から引き続き、ピアノと弾き歌いのスキルを上げていくことができる。臨時記号を理解し、左手の音階もスムーズに弾くことができるようになる。色々な指使いができるようになる。簡単なコードによる伴奏を付けることができるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン	次回授業までに課題曲を練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	バイエル73番を練習する。「もみじ」「きくのはな」「うんどうかい」を弾けるようになる。			
第17回	演習形式	授業を通じての到達目標	ト調の3連符を正確に弾くことができる。音階の指使いもスムーズにできるようになる。色々な伴奏型のある曲も弾き歌いできるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン	次回授業までに課題曲を練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	バイエル73番を完成させることができる。バイエル74番を練習する。「もみじ」「きくのはな」「うんどうかい」を完成させることができる。色々なコードと伴奏パターンのある「まっかな秋」を練習する。			
第18回	演習形式	授業を通じての到達目標	二長調の理解ができるようになる。少し難しい音階の連指もできるようになる。難しい伴奏を弾きながら、しっかりと歌えるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン	次回授業までに課題曲を練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	バイエル74番を完成させることができる。バイエル75番を練習する。「まっかな秋」を完成させることができる。「たき火」「コンコンクシャンのうた」を練習する。			
第19回	演習形式	授業を通じての到達目標	両手の和音をバラバラにならず、正確に弾けるようになる。長い前奏がついているが、しっかりと弾けることができる。曲の途中の間奏も正確に弾けるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン	次回授業までに課題曲を練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	バイエル75番を完成させることができる。バイエル76番を練習する。「たき火」「コンコンクシャンのうた」を完成させることができる。テストの課題曲を練習する。			
第20回	演習形式	授業を通じての到達目標	バイエルは正確にミスを少なく弾けるようになる。弾き歌いは少し工夫をした伴奏をつけながらも、しっかりと歌えるようになる。			
		各コマにおける授業予定	バイエル1曲、弾き歌い1曲の実技発表テストを行う。			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	演奏を通じての到達目標	3拍子のリズムに乗って、両手の8分音符が流れるように動くことができる。クリスマスの歌を弾き歌いする。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル76番を完成させることができる。77番を練習する。「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」を練習する。		
第22回	演奏を通じての到達目標	ト長調6拍子のリズムに乗って、両手の8分音符が流れるように動くことができる。クリスマスの歌を弾き歌いする。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル77番を完成させることができる。バイエル78番を練習する。「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」が完成する。小テストの課題曲を決め、練習する。		
第23回	演奏を通じての到達目標	ト長調6拍子のリズムに乗って、両手の8分音符が流れるように動くことができる。クリスマスの歌を弾き歌いする。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル78番を完成させることができる。バイエル80番を練習する。自作アレンジによる弾き歌いの曲を練習する。		
第24回	演奏を通じての到達目標	ト長調の曲を理解し、転調、音の移動、指使いなど気をつけながら、弾くことができるようになる。自作アレンジ弾き歌いはイントロや伴奏にくふうをしながら、完成させていくことができる。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル80番を完成させることができる。バイエル81番を練習する。アレンジ楽譜による弾き歌いを完成させていくことができる。		
第25回	演奏を通じての到達目標	バイエルはより正確にミスを少なく弾けるようになる。弾き歌いは楽譜を作成することによって、歌に集中して、演奏できるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル1曲、自作アレンジ楽譜による弾き歌い1曲の実技発表テストを行う。		
第26回	演奏を通じての到達目標	#4つのホ長調の曲で転調や装飾音符などもあるが、ゆっくりとしたテンポから反復練習をすれば弾けるようになる。ト長調の3コードで冬の歌を弾くことができる。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル81番を完成させることができる。バイエル82番を練習する。「ゆきのペンキやさん」「ゆきの小ぼうず」「ゆき」を練習する。		
第27回	演奏を通じての到達目標	両手で1オクターブの音階を何度も弾く曲ではあるが、片手づつ、連指を確認しながら練習すると弾くことができる。弾き歌いはどちらからト長調の曲で3コード以外のコードも出てくるが、ゆっくりとしたテンポでしっかりと歌うことで弾くことができる。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル82番を完成させることができる。バイエル83・85番を練習する。「ゆきのペンキやさん」「ゆきの小ぼうず」「ゆき」を完成させることができる。「お正月」「北風小僧のかんたろう」を練習する。		
第28回	演奏を通じての到達目標	各自少し難易度の高い曲を選択し、テストに向けて練習を始める。弾き歌い曲は自作アレンジ楽譜で、アレンジを考えることができる。	バイエル教則本 ブルグミュラー25 などみんなの歌 ベストテン 続こ どものうた200	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル83・85番を完成させることができる。後期テストの課題曲を決定し、練習する。「お正月」「北風小僧のかんたろう」を完成させる。後期弾き歌いテストの曲を決める。		
第29回	演奏を通じての到達目標	今までの授業で身につけてきたスキルで、何度も繰り返し練習をし、課題曲を弾けるようにする。好きな歌をまずはしっかりと歌えるようにアレンジをして、ピアノ伴奏を付けていくようになる。	バイエル教則本 ブルグミュラー25 などみんなの歌 ベストテン 続こ どものうた200	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	各自決めた課題曲をしっかりと練習し、完成に近づけていく。アレンジ楽譜を何度も練習し、歌についても歌詞は覚えていくようにする。		
第30回	演奏を通じての到達目標	テスト課題曲を何度も繰り返し、テンポ、強弱、リズム、表現などの完成度を上げていくことができる。弾き歌いも何度も練習していくと歌がしっかりと大きな声で歌えるようになる。	バイエル教則本 ブルグミュラー25 など みんなの歌 ベストテン続こ どものうた200	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	テストに向けてしっかりとピアノも歌も準備ができるようになり、本番で実力が出せるようになる。		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	人間関係		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年		学期及び曜時限	後期 月曜7限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	山田 遥	実務経験とその関連資格	吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許			
《授業科目における学習内容》						
子どもとの関係だけでなく、保護者と、保育者同士など大人との人間関係が子どもにどう影響するかを考え、保育士が保育の中で留意、配慮すべき事項を理解し、保育所だけでなく、家庭、地域社会などが連携し多様な人間関係のなかで子どもを育てていくことの大切さについて説明することができる。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
保育所保育指針、保育所保育指針解説、適宜資料を配布します						
《授業外における学習方法》						
子ども同士の関わり方、大人同士の関わり方、子どもと大人の関わり方に関心を持ち、積極的に観察する。 また、普段の生活の中でたくさんの人と積極的に関わること。						
《履修に当たっての留意点》						
子どもたちだけでなく、保護者や職員同士の人間関係についても考え、保育士としてどのような配慮や援助が必要なのか学んでいきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	自己を理解し自己概念を持つことができるようになる。	なし		自分自身の幼少期を振り返っておく。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 自己理念と自己概念			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもを取り巻く人的環境、また社会や文化といった背景を考慮していくことで理解を深めることができる。	資料配布		今まで自分にかかわった人を振り返る。
		各コマにおける授業予定	社会・文化に生きる子ども			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育所保育指針の基本について学んたうえで、子どもが遊びや生活の中から学んでいること、領域「人間関係」が目指すものを説明できる。	資料配布		5領域のねらい、内容を読む。
		各コマにおける授業予定	領域「人間関係」が目指すもの			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	領域「人間関係」のねらいについて説明できる。	資料配布		領域「人間関係」のねらい、内容を読む。
		各コマにおける授業予定	領域「人間関係」の基礎知識			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもが遊びの中で友達とのかかわりを築いていく過程を捉え、理解し援助することができるようになる。	資料配布		こどもの遊びにはどのようなものがあるか考える。
		各コマにおける授業予定	乳幼児の遊びの計画、実践			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児の保育所における人とかかわりの大切さについて説明できる。	資料配布	乳幼児の発達について予習しておく。
		各コマにおける授業予定	乳幼児の発達と人間関係		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児の保育所における人とかかわりの大切さについて説明できる。	資料配布	乳幼児の発達について予習しておく。
		各コマにおける授業予定	乳幼児の発達と人間関係		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	一人ひとりのニーズに合わせた適切な保育について自分の意見を述べることができる。	資料配布	一人ひとりを大切にしたい保育とはどのようなことか考える。
		各コマにおける授業予定	特別な支援を必要とする子どもと他の子どもがともに育ち合うための関わり		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもにとっての人間関係の現代的課題を見つめ、どのような支援が必要であるかを考え、理解し、説明することができる。	資料配布	子どもに関する現代社会の問題について調べる。
		各コマにおける授業予定	子どもの人間関係をめぐる現代的課題		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育者と保護者がどのような人間関係を築くことが、子どもにとってよりよい人との関わりを促していくのかを考え、理解し、説明することができる。	資料配布	保護者にとって、どんな保育士が良いか考える。
		各コマにおける授業予定	保育者と保護者の人間関係		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育者と保護者がどのような人間関係を築くことが、子どもにとってよりよい人との関わりを促していくのかを考え、理解し、説明することができる。	資料配布	保護者にとって、どんな保育士が良いか考える。
		各コマにおける授業予定	保育者と保護者の人間関係		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもがよりよい成長を成し遂げられることが出来るようになるために保育士として求められるものを考え、学び、説明することが出来る。	資料配布	子どもにとって良い保育士とはどんな保育士か考える。
		各コマにおける授業予定	保育者に求められるもの		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもたちのかかわりの育ちをどのようにみたらよいのかを理解し、子ども理解を深めることが出来る。	資料配布	子ども、保護者にとってどんな保育士が求められるか考える。
		各コマにおける授業予定	園内の人間関係と保育者の自分磨き 子ども理解に向けて		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもたちにとってモデルとなる保育士同士のかかわり方について考え、どうあるべきかを述べる事が出来る。	資料配布	保育者同士でのかかわり方はどのようなものか考える。
		各コマにおける授業予定	保育者同士のかかわり		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	全15回の授業を振り返り、保育現場での行われる人とかかわりについて理解し、説明することが出来る。	なし	今までの授業を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	全15回の授業を振り返る		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	健康		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 水曜7限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	織田 修輔	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 『保育所保育指針』の健康領域を理解し、心身共に健康な子どもの姿・発達の実態について学ぶ。また、子どもの健康を考えた保育の展開方法を演習を通じて、自分の言葉で説明できるようになる。 「子どもの健康な心と身体を培っていくためには、どのような園生活を大事にしていけばよいのか」、また、「保育者間の連携や保護者との連携、地域の専門家との連携をどう進めていくのか」などを、考える機会とし、自分の考えを他者に伝えられるようになる。						
《成績評価の方法と基準》 科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 参考図書 ・最新保育講座[7] 保育内容「健康」 ミネルヴァ書房 ・保育所保育指針 など						
《授業外における学習方法》 復習として、授業で得た知識が、保育における育ちの要素を5つに分類した5領域の中で、どのように関連しているか振り返っておく。 施設実習後は、授業で得た知識を実際に施設実習での体験を関連付けしておく。 予習として、『保育内容総論』での学びを振り返っておく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児の生活環境と活動量は関係性があることについて説明できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	乳幼児期の生活リズムや生活習慣の発達			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児期における生活習慣を無理なく獲得するための留意点を説明できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	乳幼児の「健やかな心と身体」をささえているもの			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児期の活動意欲をどのように捉えるか、自分の考えを述べることができる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	乳幼児期の遊びと活動意欲			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児が安全と保健について、理解していくために大人が留意すべきことを述べることができる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	乳幼児の安全と保健指導のあり方			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	指導計画の立案における留意点を述べることができる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	「健康」と保育方法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	心の安定をもたらす環境づくりについて、また、子どもに戸外遊びが必要な理由について説明できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」と保育の実際1 [安定感] [戸外遊び]		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもが、基本的な生活習慣を習得していくために保育者が留意すべき事柄を述べるができる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」と保育の実際2 [自分たちで生活の場を整えていく]		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康を考えていく体制とは、どのようなことがあるか述べれる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」と保育の実際3 [健康や病気への関心]		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの事故の実態について、述べることで、また、危険や安全を意識する力を育てるための保育者の基本姿勢について説明できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」と保育の実際4 [危険や安全への関心]		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	幼児期における、運動能力の発達の傾向について説明できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」の指導1 [子どもの体力づくり]		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもが、運動意欲を高めるために必要な子どもの成長の特性について説明できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」の指導2 [運動意欲を育む指導]①		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもが、運動意欲を高めるため環境づくりに必要な留意事項について説明できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」の指導2 [運動意欲を育む指導]②		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	自分が理想とする「子どもの遊び特性に配慮した園庭・遊具」を図示できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」の指導3 [子どもの遊び特性に配慮した園庭・遊具]		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育者が留意すべき、運動遊び時の安全管理について説明できる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」の指導4 [保育環境の安全性]		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	自らがすべき、健康管理について述べるができる。	・保育所保育指針 ・配布資料 ・スライド	・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「健康」の変換 振り返り		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	造形 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	夜主1年		学期及び曜時限	前期 土曜日2限目	教室名	6階 造形室
担当教員	下地忠司	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
①造形表現:幼児造形教育の基本的性格の把握をすることができる。②色彩に於ける基本的理解:色の体系、(三原色、三要素)色の知覚、色の感情効果を理解することができる。③造形に於ける形体の成り立ちを理解することができる。④造形における構成、配色、調和を理解することができる。⑤描画材料と用具の使い方を習得することができる。⑥各種表現手法を習得することができる。⑦造形表現の制作過程を学ぶことができる。						
《成績評価の方法と基準》						
1:課題内容の把握 2:適切な素材を用いているか 3:材料の加工・表現技能 4:内容の豊かさ・工夫の度合い 5:テストの評価 6:授業態度 等による評価 絶対評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
1:レジメ・各講義内容に応じたプリントを配布 2:描画材 (ポスターカラー・色鉛筆・トータルカラー・クレパス・描画用紙・粘土・木材等)						
《授業外における学習方法》						
造形の授業は保育指針の中での領域「表現」にあたります。「ねらい」として 1・いろいろなもの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 2・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 3・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。とあります。日本の自然環境や風土には幼児が豊かに表現活動を行うことができる環境が用意されています。それを汲み取る動きを日頃から公共の文化施設(美術館等)や造形ワークショップ、メディア等を利用していく感性を養います。						
《履修に当たっての留意点》						
造形表現の(表)は、表出、心の中にあるものが外にあらわれ出ること。(現)は出現、実際にあらわし出すこと。です思いついた絵を勇気を持って描いてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児造形表現とは何か、子どもたちと造形活動の関わり、幼児芸術のもつ統制的理念について知ることができる。	・幼児造形教育とは何かについてのプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	前期授業内容の説明。制作用具の配布、「幼児造形教育とは何か」について理解する。			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	図柄をヒントに形の展開表出へ繋げることができる。	・発送演習用紙を配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	幼児造形活動のキーワードであるみたて活動を発想演習用紙を使って12種類の図柄の色鉛筆で制作します。			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	色彩の基礎、色味の成り立ちについて知ることができる	・色彩プリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	八つ切り制作用紙に色彩の体系、12色相環を作図し、トータルカラーで制作します。			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	色彩の基礎、色料の三原色について知ることができる	・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	八つ切り制作用紙に色彩の体系、色料の三原色を作図し、トータルカラーで制作します。			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	色彩の基礎、色光の三原色について知ることができる	・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	八つ切り制作用紙に色彩の体系、色光の三原色を作図し、トータルカラーで制作します。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 授業を通じての到達目標	色の明度、彩度、色相 を理解することで色味の表現に役立つ。 配色による調和と対比効果について知ることができる。		・色彩プリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	八つ切り制作用紙に作図し、絵の具(ポスターカラー)で制作します。1			
第7回	実習形式 授業を通じての到達目標	色の明度、彩度、色相 を理解することで色味の表現に役立つ。 配色による調和と対比効果について知ることができる。		・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	八つ切り制作用紙に作図し、絵の具(ポスターカラー)で制作します。2			
第8回	実習形式 授業を通じての到達目標	色彩構成の実技演習を通して彩色技能表現を身につけることができる。		・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	設題技法1 八つ切り制作用紙に作図し、絵の具(ポスターカラー)で色彩構成、春夏秋冬の葉っぱのデザイン。			
第9回	実習形式 授業を通じての到達目標	色彩構成の実技演習を通して彩色技能表現を身につけることができる。		・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	設題技法1 八つ切り制作用紙に作図し、絵の具(ポスターカラー)で色彩構成。春夏秋冬の葉っぱのデザイン。			
第10回	実習形式 授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を知ることができる。		・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	設題技法2 ケント紙にサインペン、マーカー、水を使用し空想上の装飾的蝶々を描きます。			
第11回	実習形式 授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を知ることができる。		・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	設題技法2 ケント紙にサインペン、マーカー、水を使用し空想上の装飾的蝶々を描きます。			
第12回	実習形式 授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を知ることができる。		・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	設題技法 3 絵の具(ポスターカラー)とクレパスを併用し、はじき絵(パティック表現)を制作します。海洋の世界。			
第13回	実習形式 授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を知ることができる。		・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	設題技法 3 絵の具(ポスターカラー)とクレパスを併用し、はじき絵(パティック表現)を制作します。海洋の世界。			
第14回	実習形式 授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を知ることができる。		・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	設題技法 4 オートマティズムの技法により色画用紙に4点デカルコマニーを制作しタイトルをつけます。			
第15回	実習形式 授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を知ることができる。		・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチしておくこと。
	各コマにおける授業予定	設題技法 5 オートマティズムの技法により糸落とし、ビー玉流し、スタンプングを制作します。			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	音楽 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 火曜6・7限	教室名	ピアノ室
担 当 教 員	谷 理香・近 眞理	実務経験と その関連資格	ヤマハ音楽教室において、幼児音楽教育全般の指導にあたり、講師の育成に長年携わっていた。大学において、幼児教育学科にて勤務、ピアノ・声楽を主に教えていた。			
《授業科目における学習内容》						
<p>幼児への音楽教育を実践するために不可欠なピアノ実技、声楽、音楽理論を基礎から学ぶ。音符、リズムの理解から始め、各自がスムーズに楽譜が理解できるようにする。ピアノが両手で弾けるようになり、色々なこどもの歌を歌えるようにする。保育現場で使用される様々な歌を弾き歌いできるようにする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
科目実技試験 70% 出席評価 30% 平常評価 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
バイエル教則本 ブルグミュラー25の練習曲 ソナチネアルバムなど。 こどもの歌ベストテン						
《授業外における学習方法》						
予習、復習として、課題曲を自己練習をし、ピアノに慣れ、練習をしておくことが望ましい。						
《履修に当たっての留意点》						
音楽教育は幼児の発達、発育にとっても重要な役割を果たしています。ピアノ初心者も経験者も楽しんでピアノや歌のスキルを身につけていきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期から引き続き、ピアノと弾き歌いのスキルを上げていくことができる。臨時記号を理解し、左手の音階もスムーズに弾くことができるようになる。色々な指使いができるようになる。簡単なコードによる伴奏を付けることができるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン	次回授業までに課題曲 を練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	バイエル73番を練習する。「もみじ」「きくのはな」「うんどうかい」を弾けるようになる。			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	ト調の3連符を正確に弾くことができる。音階の指使いもスムーズにできるようになる。色々な伴奏型のある曲も弾き歌いできるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン	次回授業までに課題曲 を練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	バイエル73番を完成させることができる。バイエル74番を練習する。「もみじ」「きくのはな」「ういんどうかい」を完成させることができる。色々なコードと伴奏パターンのある「まっかな秋」を練習する。			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	ニ長調の理解ができるようになる。少し難しい音階の運指もできるようになる。難しい伴奏を弾きながら、しっかりと歌えるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン	次回授業までに課題曲 を練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	バイエル74番を完成させることができる。バイエル75番を練習する。「まっかな秋」を完成させることができる。「たき火」「コンコンクシヤンのうた」を練習する。			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	両手の和音をバラバラにならず、正確に弾けるようになる。長い前奏がついているが、しっかりと弾けることができる。曲の途中の間奏も正確に弾けるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベスト テン	次回授業までに課題曲 を練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	バイエル75番を完成させることができる。バイエル76番を練習する。「たき火」「コンコンクシヤンのうた」を完成させることができる。テストの課題曲を練習する。			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	バイエル1曲、弾き歌い1曲の実技発表テストを行う。			
		各コマにおける授業予定	バイエルは正確にミスを少なく弾けるようになる。弾き歌いは少し工夫をした伴奏をつけながらも、しっかりと歌えるようになる。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演奏を通じての到達目標	3拍子のリズムに乗って、両手の8分音符が流れるように動くことができる。クリスマスの歌を弾き歌いする。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル76番を完成させることができる。77番を練習する。「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」を練習する。		
第7回	演奏を通じての到達目標	ト長調8分に6拍子、テンポが速く、中間部は少し難易度が上がる曲ではあるが、強弱も付けながら、弾くことができるようになる。ヘ長調も3コードが基本になる曲、5番まである曲だが、雰囲気を見失わずに、楽しく弾き歌いできるようになる。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル77番を完成させることができる。バイエル78番を練習する。「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」が完成する。小テストの課題曲を決め、練習する。		
第8回	演奏を通じての到達目標	装飾音、弱拍からのメロディ、転調、音の広範囲の移動とかなりバリエーションに富んでいる曲ではあるが、ゆっくりと右手を練習すれば、弾くことができるようになる。自作アレンジ楽譜を作成する。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル78番を完成させることができる。バイエル80番を練習する。自作アレンジによる弾き歌いの曲を練習する。		
第9回	演奏を通じての到達目標	イ長調の曲を理解し、転調、音の移動、指使いなど気をつけながら、弾くことができるようになる。自作アレンジ弾き歌いはイントロや伴奏にくふうをしながら、完成させていくことができる。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル80番を完成させることができる。バイエル81番を練習する。アレンジ楽譜による弾き歌いを完成させていくことができる。		
第10回	演奏を通じての到達目標	バイエル1曲、自作アレンジ楽譜による弾き歌い1曲の実技発表テストを行う。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエルはより正確にミスを少なく弾けるようになる。弾き歌いは楽譜を作成することによって、歌に集中して、演奏できるようにする。		
第11回	演奏を通じての到達目標	#4つの本長調の曲で転調や装飾音符などもあるが、ゆっくりとしたテンポから反復練習をすれば弾けるようになる。ヘ長調の3コードで冬の歌を弾くことができる。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル81番を完成させることができる。バイエル82番を練習する。「ゆきのペンキやさん」「ゆきの小ぼうず」「ゆき」を練習する。		
第12回	演奏を通じての到達目標	両手で1オクターブの音階を何度も弾く曲ではあるが、片手づつ、運指を確認しながら練習すると弾くことができる。弾き歌いはどちらもヘ長調の曲で3コード以外のコードも出てくるが、ゆっくりとしたテンポでしっかりと歌うことで弾くことができる。	バイエル教則本 みんなの歌ベストテン	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル82番を完成させることができる。バイエル83・85番を練習する。「ゆきのペンキやさん」「ゆきの小ぼうず」「ゆき」を完成させることができる。「お正月」「北風小僧のかんたろう」を練習する。		
第13回	演奏を通じての到達目標	各自少し難易度の高い曲を選択し、テストに向けて練習を始める。弾き歌い曲は自作アレンジ楽譜で、アレンジを考える。	バイエル教則本 ブルグミュラー25 などみんなの歌 ベストテン 続こ どものうた200	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	バイエル83・85番を完成させることができる。後期テストの課題曲を決定し、練習する。「お正月」「北風小僧のかんたろう」を完成させる。後期弾き歌いテストの曲を決める。		
第14回	演奏を通じての到達目標	今までの授業で身につけてきたスキルで、何度も繰り返し練習をし、課題曲を弾けるようにする。好きな歌をまずはしっかりと歌えるようにアレンジをして、ピアノ伴奏を付けていくようにする。	バイエル教則本 ブルグミュラー25 などみんなの歌 ベストテン 続こ どものうた200	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	各自決めた課題曲をしっかりと練習し、完成に近づけていく。アレンジ楽譜を何度も練習し、歌についても歌詞は覚えていくようにする。		
第15回	演奏を通じての到達目標	テスト課題曲を何度も繰り返し、テンポ、強弱、リズム、表現などの完成度を上げていくことができる。弾き歌いも何度も練習していくと歌がしっかりと大きな声で歌えるようになる。	バイエル教則本 ブルグミュラー25 など みんなの歌 ベストテン続こ どものうた200	次回授業までに課題曲を練習しておく。
	各コマにおける授業予定	テストに向けてしっかりとピアノも歌も準備ができるようになり、本番で実力が出せるようになる。		

学 科	保健保育		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演 習
科 目 名	子どもの健康と安全		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 水曜日7限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	長谷川 祥	実務経験と その関連資格	保育教諭3年、特別支援学校講師2年 保育士・特別支援学校教諭1種免許状・修士課程			

《授業科目における学習内容》

自身の心身の健康について考え、理解を深めた上で、①「子どもの健康支援」、②「食育の推進」、③「環境及び衛生管理並びに安全管理」、④「災害への備え」について学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験70% 出席評価点20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

適宜資料を配布。

《授業外における学習方法》

「子どもの保健」で学んだ内容についても復習しておく。また、授業内で配布する資料をよく理解し、復習を行う。子どもの発育発達についての理解を深めておく。

《履修に当たっての留意点》

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	健康には前向きな気持ちが必要であることができる。	配布資料	自分自身の余暇生活を振り返っておく。
	各コマにおける授業予定	授業概要の説明 「レクリエーション」の考え方から、心の健康について学ぶ。		
第2回	授業を通じての到達目標	心の健康(元気に過ごすこと)を支援する保育士の役割について説明することができる。	特になし	・配布資料を活用し、復習しておく。
	各コマにおける授業予定	子どもの健康支援を学ぶ。 人間の食事行為が「栄養摂取」のみにとどまらないことを学ぶ。		
第3回	授業を通じての到達目標	子どもの健康状態・発育・発達状態の現状について、簡単に説明することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
	各コマにおける授業予定	子どもの健康支援を学ぶ。 子どもの健康状態・発育・発達状態の現状について学ぶ		
第4回	授業を通じての到達目標	健康診断の必要性を簡単に説明することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
	各コマにおける授業予定	子どもの健康支援を学ぶ。 健康診断を保育活用することの重要性を確認する。		
第5回	授業を通じての到達目標	保育者が実践しなければならない「疾病等への対応」の留意点を簡単に説明することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
	各コマにおける授業予定	子どもの健康支援を学ぶ。 保育者が把握してすべき「子どもの疾病等への対応方法」を学ぶ。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	「楽しさ」を感じる心の仕組みについて、説明することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	「フロー理論」、「マズローの欲求5段階説」を参考に、楽しさを通した「心の健康」と対象者の「心の健康」について学ぶ。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	「集団」とは何か、簡単に説明することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	「良好な集団づくり」の留意点を学ぶ。「集団の成長と共に、支援者の関わり方が変化していくことを学ぶ。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	5分程度の「集団」を活用したコミュニケーションを促すプログラムを展開することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	「集団」を活用したコミュニケーション促進の援助の留意点を学ぶ。集団に向けた関わり方の留意点を学び、コミュニケーションゲームの進行を体験する。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	「食育」の必要性を説明することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	「保育所の特性を活かした食育」の留意点を学ぶ。「食育の環境整備」の留意点を学ぶ。		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育者の「環境及び衛生管理並びに安全管理」について説明することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	保育者が努めるべき「環境及び衛生管理」について学ぶ。保育者が努めるべき「安全管理」について学ぶ。		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	災害時における保育者の対応、備えについて説明することができる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	学内で災害が発生した際の留意点を確認しながら、災害時における保育者の対応について理解する。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもが安全に過ごす保育環境を紙面に表現する際の留意点を説明できる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	これまでの「子ども健康と安全」、「子ども保健」で学んだ内容を振り返り、「保育計画(指導案)」作成の際、どのように導入するか学ぶ。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもが安全に過ごす保育環境を紙面に表現できる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	これまでの「子ども健康と安全」、「子ども保健」で学んだ内容を振り返り、「保育計画(指導案)」作成の際、どのように導入するか学ぶ。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	紙面で表現した「子どもが安全に過ごす保育」を、クラスメイトを対象にして実践できる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	紙面で表現した「子どもが安全に過ごす保育」を、クラスメイトを対象にして演習する。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康と安全の管理について説明できる。	特になし	前回までの授業の復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	これまでの授業内容をもとに、子どもの健康と安全について理解を深める。		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	事前実習指導		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 火曜日7限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	清水 靖子	実務経験とその関連資格	八尾市にある社会福祉法人の保育園に保育士として勤務。主業務は保育士として働き、担任・副担任をする。また子どもの保育や実習生の指導を行っていた。その後、大阪市にある学校法人の幼稚園に幼稚園教諭として勤務。主業務は幼稚園教諭として担任を担当し、子どもの教育を行う。保育士と幼稚園教諭免許			
《授業科目における学習内容》						
現場実習においての心構えや目的を学び、主体的に実習に参加しより多くを学びを得ることができるようにする為の方法や実習日誌の記載方法や決まりを学び、また講義だけでなく、現場における事例をもとに実践できる。						
《成績評価の方法と基準》						
・授業内評価と提出物、報告会 70% ・出席評価点 20% ・平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・教科書『幼稚園・保育園 実習まるわかりガイド』						
《授業外における学習方法》						
子どもの発達・発育に対して、目を通しておく。また、手遊び等授業があるたびに覚えるなどと決め、レポーターを普段から増やしていくようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
子どもは無数の可能性を持っています。その可能性を広げるのは、保育士になろうと決めたあなた達です。子ども達に沢山の経験を通して学べるよう、今から色々なことに興味を持って取り組み沢山の経験をし、楽しむこと・表現する事を心掛けて取り組んで欲しいです。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習内規について理解し、1つ1つの授業が現場実習に繋がることからこれからの取り組み方をイメージできるようになる。	・実習内規 ・ボランティア手帳 ・配布資料(ボランティア手帳記載例)	・使用教科書の確認と教科書に目を通しておく。	
		各コマにおける授業予定	・実習内規について理解。 ・地域ボランティア活動について、ボランティア手帳の記載方法の理解。			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習の意義・目的を理解し、事前の準備が大切である事が分かる。	・プリント(実習の意義と目的) ・配布資料(実習の意義)	・次回の授業までに、今回の授業で不安や分からないことをまとめておく。	
		各コマにおける授業予定	・実習の意義・目的の理解。 ・実習 I II IIIで学べる施設、実習の流れの理解。			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習の概要を理解し、ねらいや内容の理解し主体的に学ぶことが必要と知り、主体的に参加できるようになる。	・教科書 ・配布資料(実習概要) ・プリント(保育実習 I 希望調査)	・手遊びを1つ覚えてくる。 ・次回の授業までに、希望調査のプリントを完成させる。	
		各コマにおける授業予定	・実習概要の理解。 ・ねらいと内容は事例を含めて説明。 ・実習先希望調査について(公立と私立の違い)。			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	普段の行動、行いから直す必要があると気づき、行動に移していこうと意欲をもって取り組む事ができる。	・プリント(実習に必要な基本的な心構えとマナー)	・次回の授業までに、今回のプリントを見直し、メモをすることができなかったことや理解できなかったこと、不安なことを質問できるようにしておく。	
		各コマにおける授業予定	・実習に必要な心構えと準備。			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	PCを使いより詳しく実習先を調べることで、実習への意欲が高まり、計画をもって取り組むことができる。	・PC ・プリント(子どもと関わるうえでのポイント)	・自分で選んだ保育園の行事予定や保育理念等をよく読み、理解に繋げる。	
		各コマにおける授業予定	・実習先の決定。 ・実習生と子どもとのかかわり。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	敬語が使えていると思っても正しくない敬語だったということに気づき、普段の話し方から気をつけ、実践して取り組むことができる。	・プリント(職員との関わり) ・プリント(敬語表)	・普段から言葉使いに気をつけて、友だちや大人、教員と関わりをもつ。
		各コマにおける授業予定	・職員とのかかわり。 ・言葉使いについて。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	電話のやり取りの練習に真剣に取り組むことができる。	・プリント(実習前ボランティアまでに行う準備について)	・実習前ボランティアでは、何歳児クラスが希望なのか、そしてその理由が言えるように考えておく。
		各コマにおける授業予定	・実習前ボランティアの事前準備について(確認事項・電話)。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの園生活を知り、どのようなかかわりをするのか考え、主体的に発表することができる。	・プリント(子どもの園生活) ・プリント(名札の作り方)	・名札のデザイン、材料、裁縫道具を次回の準備までに用意し、持参できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	・子どもの園生活を知る(デイリープログラム)。 ・名札の作り方。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	名札作りが、現場でも役立つということに気づき、丁寧に取り組む事ができる。	・裁縫道具	・今回の授業で完成できなかった学生は、次回の授業までに完成させる。
		各コマにおける授業予定	・名札作り。		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育園の1日を知ることで、保育士の多様な仕事内容を知り、説明することができる。	・プリント(保育士の基礎知識) ・DVD(保育士の1日)	・次回の授業までに子どもの発達過程に目を通し、発達段階に対してどのような配慮や援助が必要なのか考える。
		各コマにおける授業予定	・保育士の基本的な基礎知識復習ワーク。 ・学習DVD。		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	予想される子どもの様子が想像できるようになる。	・実習日誌 ・見本の実習日誌 ・教科書	・手遊びの発表までに十分な練習を行い、発表に挑めるようにする。
		各コマにおける授業予定	・実習日誌の書き方。 ・実習日誌の練習。 ・手遊び発表について。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達に沿った遊びをグループで意見を出しあい、主体的に参加することができる。	・保育雑誌 ・教科書	・次週、園長先生の特別講義に対して、聞きたいこと・不安なこと等質問できるように、内容をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	・発達過程について。 ・援助と配慮とは。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習をするうえで不安に思うことを、質問し解決・理解に繋げることができる。	・DVD(子どもの成長過程) ・お礼状	・次週の授業までに、お礼状を完成させ、提出する。
		各コマにおける授業予定	・特別講義(実習を受け入れている園長先生より)。 ・お礼状記入。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの姿を予想できるようになる。	・教科書	・各年齢に対する成長の特徴を理解し覚える。
		各コマにおける授業予定	・発達過程を知る。 ・成長を見通した保育。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習報告会を通して、ボランティアに向けて計画を立て取り組むことができる。	・USB(実習報告会)	・実習前ボランティアまで必要なものを理解し、準備を行う。
		各コマにおける授業予定	・実習前ボランティアや実習での取り組み方。 ・きをつけること。 ・実習態度。		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	乳児保育Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年	学期及び曜時限	後期 木曜6限	教室名	合同301教室
担 当 教 員	酒井 妙子	実務経験と その関連資格	社会福祉法人ミード保育園にて保育士として勤務した後、ベビーシッター会社のアドバイザー、手づくりほいく研究会の代表等を経て、育児セラピスト及びベビーマッサージインストラクター。		

《授業科目における学習内容》

乳児期の子どもの発達を理解し、育ちを支える保育が実際の現場でどのように展開されているのかを学ぶ。そして、演習を通じて、子ども達にとってより適切な保育とは何かについて自ら考え、同じ志を持つ仲間との意見交換やアクティビティの中で共に具体策を見出ししていく。さらにはそれが学生たちが保育士となった際の子どもの発達と関わる灯台となりえるような保育の心やまなざしにつながっていくような授業内容でありたい。

《成績評価の方法と基準》

定期試験(70%) 出席点(20%) 平常点(提出物、授業への参加態度や演習に取り組む姿勢など)(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

- ・教科書:『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』
- ・参考図書:『保育所保育指針』、『命はどうして大切な(大野正人作 汐文社)』、『新・基本保育シリーズ⑩乳児保育Ⅰ・Ⅱ(中央法規)』、『乳児保育の困りごと解決BOOK 0歳児クラス編、1歳児クラス編、2歳児クラス編(中央法規)』
- ・参考絵本:『命はどうしてたいせつなの(大野正人作・汐文社)』

《授業外における学習方法》

- ・授業終了時に、次の授業内容についての予告をする。それについて関連する教科書の箇所や新聞・テレビなどの情報を入力し、ある程度の知識を持って授業に望むよう努める。
- ・授業内容をより具体的に理解し、実践に結びつけた知識となるためにも、実習をはじめ、現場体験を重ねよう努める。
- ・授業における疑問点やさらに深く学びたいことは、自ら様々な文献を紐解き調べ学習するように心がける。

《履修に当たっての留意点》

乳児期は「ヒトが人間」となっていく一生の中で、もっとも大きな変化(発達)をなしとげる時期である。そして、「生きる為に生きる」エネルギーには目を見張るものがあるが、そのエネルギーと尊い生命を支えているのは子どもの隣に存在する大人(保育者)である。是非とも、学生の皆さんにはそのような存在になりえることに喜びをもって自覚して頂きたい。又、自覚してもらえれば授業を展開したいものである。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ乳児期の重要性と、その発達課題を乗り越えていく上で大切な大人との関わり、それらにおける保育士の役割を正しく理解し、実践への意欲が育つことができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育の基本。前期の振り返りと共に、子どもと保育士との関係の重要性、個々の子どもに応じた援助や関わりについて、子どもの主体性の尊重と自己の育ち、体験と学びの芽生え等について再確認する。		
第2回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	0歳児の保育園での一日の生活の流れを把握し、乳児が安心して心地よく過ごせる生活とは何かを学び、大切にしたい視点について理解することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第1回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決BOOK 0歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(0歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた生活の流れについて学ぶ。		
第3回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの保育環境は、人的環境と物的環境に分けられるが特に物的環境における室内環境と玩具について学び、乳児にとって心地良い室内環境や発達を促す玩具とはどのようなものかについて理解を深めることができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第2回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決BOOK 0歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(0歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた保育環境について学ぶ。		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	改訂された保育所保育指針に基づく乳児保育における養護と遊びを支える教育的視点について学び、現場で必要な受容と応答的関わりについて考察することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第3回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決BOOK 0歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(0歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた援助の実践について学ぶ。		
第5回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	1歳児の保育所での一日の生活を把握すると共に、保育士の重要な役割である子どもの健康を保持するための視診や家庭との連携について理解することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第4回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決BOOK 1歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(1歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた生活の流れについて学ぶ。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1歳になった子ども達は、基本的な生活習慣について自分でやろうとする姿がみられるようになる。このような発達をふまえた適切な支援と保育環境について学び理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第5回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 1歳児クラス編』 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(1歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた保育環境について学ぶ。			
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自我の芽生えと共に自己主張が強くなる1歳児の発達を、心から喜び愛情をもって保育に当たることが出来るよう、1歳時の行動の裏にある発達の視点への理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第6回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 1歳児クラス編』 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(1歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた援助の実践について学ぶ。			
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	食事・排泄・衣服の着脱、清潔など毎日の生活リズムを安定させていくことと1人ひとりの子どもの欲求を十分満たしていく保育について学び理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第7回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 2歳児クラス編』 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(2歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた生活の流れについて学ぶ。			
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動能力も知的発達も進み、活動的になる2歳児に適した保育環境とはいかなるものか。発達をしっかりと理解した上で保育環境について理解し考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第8回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 2歳児クラス編』 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(2歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた保育環境について学ぶ。			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	保育所保育指針に示されている「育みたい資質、能力」につながる2歳児の育ちについて理解し、3歳以降の保育の基盤となる保育と発達の援助について理解し考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第9回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 2歳児クラス編』 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(2歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた援助の実践について学ぶ。			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康を維持し、安全を守っていくことは保育士に課せられた最大の役割であることを認識し、その上で様々な場面におけるリスクマネジメントについて、理解し考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第10回授業までの配布資料 ・足立区立園の保育の質が上ってきた理由(学研)参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育における子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図る為の配慮について学び、説明できる。			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	乳児保育において子ども一人ひとりの欲求を満たし、興味や関心に即した対応は必要不可欠なものであるが、同時に集団での育ちの重要性も考慮する必要がある。このことへの理解を深め、その具体策について学ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第11回授業までの配布資料 ・足立区立園の保育の質が上ってきた理由(学研)参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育における集団での生活における配慮について学び、説明できる。			
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	乳児から幼児への移行がスムーズに進むように、子どもの心の不安にしっかり寄り添い、その発達の特徴を正確に理解した対応が求められる。そのことを学び、具体策をしっかり吸収することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第12回授業までの配布資料 ・足立区立園の保育の質が上ってきた理由(学研)参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育における環境の変化や移行に対する配慮について学び、説明できる。			
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	保育は集団で実施されるが、乳児にとって最も大切なのは個々の育ちである。ひとりひとりの育ちを保障する保育を目指すためにはどのような工夫がなされるべきなのか等について学び、子どもの発達に応じた適切な保育を実施する為に必要不可欠な指導計画の作成における留意点などを理解し考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第13回授業までの配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育における計画の実践・長期的な指導計画と短期的な指導計画及び個別的な指導計画などについて学ぶ。			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	後期の授業のポイントを振り返り、自分自身は何が学べて、どのような保育を行える保育士を目指そうと考えているかを言語化することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第14回授業までの配布資料 ・『命はどうして大切な(汐文社)』 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・これまでの授業を振り返り、しっかりと復習しておくこと。 ・後期試験に臨む適切な学習をしておくこと。
	各コマにおける授業予定	後期試験の説明及び後期授業の振り返り。乳児保育授業の締めくくり。			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	造形Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生	学期及び曜時限	後期 土曜3限	教室名	6階 造形室
担 当 教 員	下地忠司	実務経験と その関連資格	中高美術科教員資格		

《授業科目における学習内容》

1:造形表現、幼児造形教育の基本的性格の把握 2:色彩に於ける基本的理解 色の体系、(三原色、三要素) 色の知覚、色の感情効果 3:造形に於ける形体の成り立ち 4:構成、配色、調和 5:描画材料と用具の習得 6:各種表現手法の習得 7:造形表現の制作過程

《成績評価の方法と基準》

1:課題内容の把握 2:適切な素材を用いているか 3:材料の加工・表現技能 4:内容の豊かさ・工夫の度合い 5:テストの評価 6:授業態度 等による評価 絶対評価

《使用教材(教科書)及び参考図書》

1:レジメ・各講義内容に応じたプリントを配布 2:描画材 (ポスターカラー・色鉛筆・トータルカラー・クレパス・描画用紙・粘土・木材等)

《授業外における学習方法》

造形の授業は保育指針の中での領域「表現」にあたります。「ねらい」として 1・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 2・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 3・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。とあります。日本の自然環境や風土には幼児が豊かに表現活動を行うことができる環境が用意されています。それを汲み取る動きを日頃から公共の文化施設(美術館等)や造形ワークショップ、メディア等を利用して培っていく感性を養っていただきたいと思います。

《履修に当たっての留意点》

造形表現の(表)は、表出、心の中にあるものが外にあらわれ出ること。(現)は出現、実際にあらわし出すこと。です思いついた絵を勇気を持って描いてください。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 演習形式	授業を通じての到達目標	みんなで力を合わせて一つの作品を創り出す中に制作のプロセスが客観的に捉えられ、各自が全体の中の自分に気づくことができる。	・共同制作(みんなで作る喜び)についての資料を配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
	各コマにおける授業予定	着想・発想 イメージの共有 立案。共同制作		
第2回 演習形式	授業を通じての到達目標	みんなで力を合わせて一つの作品を創り出す中に制作のプロセスが客観的に捉えられ、各自が全体の中の自分に気づくことができる。	・共同制作(みんなで作る喜び)についての資料を配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
	各コマにおける授業予定	構想段階 イメージをまとめる。共同制作		
第3回 演習形式	授業を通じての到達目標	みんなで力を合わせて一つの作品を創り出す中に制作のプロセスが客観的に捉えられ、各自が全体の中の自分に気づくことができる。	・共同制作(みんなで作る喜び)についての資料を配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
	各コマにおける授業予定	彩色 共同制作		
第4回 演習形式	授業を通じての到達目標	みんなで力を合わせて一つの作品を創り出す中に制作のプロセスが客観的に捉えられ、各自が全体の中の自分に気づくことができる。	・共同制作(みんなで作る喜び)についての資料を配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
	各コマにおける授業予定	彩色 共同制作		
第5回 演習形式	授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を説明できる。	・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
	各コマにおける授業予定	技法6 割り箸ペン、墨汁表現 1 (対象物の写生と構図)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を説明できる。	・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	技法6 割り箸ペン、墨汁表現 2		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を説明できる。	・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	技法6 割り箸ペン、墨汁表現 3		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を説明できる。	・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	技法7 様々な素材によるコラージュ 1		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	描く領域の技法の種類を説明できる。	・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	技法7 様々な素材によるコラージュ 2		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	粘土の優れた可塑性を用いてその特性と目的を考え幼児の活動に活かすことができる。	・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	楽器おもちゃづくり 1 (又は彫塑)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	粘土の優れた可塑性を用いてその特性と目的を考え幼児の活動に活かすことができる。	・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	楽器おもちゃづくり 2 (又は彫塑)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	制作物のイメージ段階のから完成までの流れを各段階における留意点ポイントを押さえていく事で各段階に置ける対応を説明できる。	・造形表現の制作の過程プリント配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	(講義) 造形表現の制作過程		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	三次元空間イメージを二次元な用紙へとモデリングの変換転写を行うことよっての立体空間の把握を培うことができる。	・技法の説明、留意点を表記したプリントを配布。 ・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	色彩構成 (立体視) 1		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	三次元空間イメージを二次元な用紙へとモデリングの変換転写を行うことよっての立体空間の把握を培うことができる。	・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	色彩構成 (立体視) 2		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	三次元空間イメージを二次元な用紙へとモデリングの変換転写を行うことよっての立体空間の把握を培うことができる。	・使用描画教材の配布	・プリントに記載された内容を再読する。 ・授業終了時に示す課題の準備リサーチをしておくこと。
		各コマにおける授業予定	色彩構成 (立体視) 3		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	保育実習 I (保育所)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	山田 遥	実務経験と その関連資格	吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許			
《授業科目における学習内容》						
保育実習指導での目的、概要、内容理解を明確にし、保育所において乳幼児の理解を深めるとともに、現場の機能と保育士の職務についても理解し、実践できるようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
必須:1日実働8時間×10日間 各実習施設にて評価(A~D) ※実習内規に基づき、参加条件あり						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
実習事前指導及び実習指導 I の事前学習資料と教科書						
《授業外における学習方法》						
実習前に、実習に向けて各自必要な準備を計画的にする。社会人力を高めるための経験や学びの機会、現場経験の機会を作る。						
《履修に当たっての留意点》						
失敗は成長できるチャンスです。主体性を発揮して、積極的に実習に臨み、経験してきてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所での生活に参加し、乳幼児の理解を深めて、説明できる。	特になし		事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	実習施設についての理解 保育の一日の流れの理解 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達の理解			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所での生活に参加し、乳幼児の理解を深めて、説明できる。	特になし		事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	実習施設についての理解 保育の一日の流れの理解 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達の理解			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所での生活に参加し、乳幼児の理解を深めて、説明できる。	特になし		事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	実習施設についての理解 保育の一日の流れの理解 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達の理解			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所での生活に参加し、乳幼児の理解を深めて、説明できる。	特になし		事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	保育における保育計画、指導計画への理解 職員間の役割分担と、チームワークの理解 保育士としての保護者との関わり方と地域連携への理解			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所の機能と保育士の職務について学び、説明できる。	特になし		事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	保育における保育計画、指導計画への理解 職員間の役割分担と、チームワークの理解 保育士としての保護者との関わり方と地域連携への理解			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所の機能と保育士の職務について学び、説明できる。	特になし	事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	保育における保育計画、指導計画への理解 職員間の役割分担と、チームワークの理解 保育士としての保護者との関わり方と地域連携への理解		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所の機能と保育士の職務について学び、説明できる。	特になし	事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	保育における保育計画、指導計画への理解 職員間の役割分担と、チームワークの理解 保育士としての保護者との関わり方と地域連携への理解		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所の機能と保育士の職務について学び、説明できる。	特になし	事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	保育における保育計画、指導計画への理解 職員間の役割分担と、チームワークの理解 保育士としての保護者との関わり方と地域連携への理解		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育士としての保育実践方法を学び、保育技術を高めて、実践できる。	特になし	事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	保育場面における保育指導計画作成とその実践 保育士としての倫理の理解 保育上の安全及び疾病予防への配慮についての理解		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育士としての保育実践方法を学び、保育技術を高めて、実践できる。	特になし	事前実習指導学習資料を読む。 実習日誌を記入。
		各コマにおける授業予定	保育場面における保育指導計画作成とその実践 保育士としての倫理の理解 保育上の安全及び疾病予防への配慮についての理解		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	保育実習指導 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 金曜7限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	山田 遥	実務経験とその関連資格	吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許			
《授業科目における学習内容》 実習の意義や目的、実習日誌の意義や書き方の理解を深め、より主体的、効果的に実習を行うための基礎知識の習得を通して、心構えを身につける。事後指導では、実習での評価反省をもとに、保育を振り返り自分に足りないものを見つけ、以後の課題を見つけることが出来る。						
《成績評価の方法と基準》 ・授業内評価と提出物、報告会 70% ・出席評価点 20% ・平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ・教科書『幼稚園・保育園 実習まるわかりガイド』						
《授業外における学習方法》 実習前ボランティアを通して自分の姿を振り返り、積極的に授業に参加する。また準備として必要だと思ったことに対し、主体的に学ぶ。実習中では手書きの日誌になるため、普段の授業等から丁寧な字で記入することを意識する。						
《履修に当たっての留意点》 保育現場では子どもが主体となって取り組めるよう、保育士はたくさんの配慮や援助を行っています。また出来ない事にも向き合い目標をもって取り組む姿が見られます。ぜひ皆さんも、子どもに負けず、自分の苦手に向き合い達成に向けて取り組んでください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習前ボランティアを振り返り、自己評価を行い、次の実習に向けた自己課題達成の為に計画を立てることが出来る。	・プリント(ボランティア報告書) ・手遊び紹介	・自己目標を達成させるために、準備等に計画を立て、取り組んでいく。	
		各コマにおける授業予定	・ボランティアの振り返り ・実習への自己課題、目標 ・手遊び発表			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	見学実習、観察実習について理解ができる。	・プリント(各実習段階の心掛けるポイント①)	・実習前ボランティアの態度を振り返りながら、必要であれば態度を変えていく。	
		各コマにおける授業予定	・各実習段階のポイント			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	参加実習、部分実習、全日(総合)実習について理解できる。	・プリント(各実習段階の心掛けるポイント②)	・部分実習、半日実習に向けて設定保育ないようを考えていく。	
		各コマにおける授業予定	・各実習段階のポイント			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習前後の留意点を理解し、準備に力を注ぐことができる。	・プリント(実習中および実習前後の留意事項)	・実践できる教材を考え、必要に応じて、集めていく。	
		各コマにおける授業予定	・1日の流れにそった留意事項			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習日誌(1日の流れ)の記入項目の理解と記入方法を理解できる。	・プリント(過去の実習日誌)	・記入項目の再確認。	
		各コマにおける授業予定	・実習日誌の記載項目の理解 ・実習日誌の記入法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	教科書を基に、理解して記入することができる。	・プリント(練習用の実習日誌) ・教科書P.88～89	・教科書を利用し、日誌の練習
		各コマにおける授業予定	・実習日誌の練習		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション依頼に対して、敬語を遣い丁寧に話することができる。	・教科書P.20～29	・オリエンテーションに必要な事項をまとめ、準備をしておく。
		各コマにおける授業予定	・オリエンテーションについて		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	お礼状の書き方を理解し、説明することができる。	・教科書P.120～123	・お礼状の準備を行い、時候の挨拶も調べておく。
		各コマにおける授業予定	・実習後のお礼状の書き方。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習を行う上での心得を理解する。	・実習日誌 ・個人票 ・実習の心得	・実習の心得を再確認する。
		各コマにおける授業予定	・実習日誌作り ・個人票記入 ・実習の心得		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	日誌の各記載項目について、理解することができる。	・プリント(実習日誌の記載項目の理解と記入例)	・個人で施設について、調べておく。
		各コマにおける授業予定	・各項目について		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	就職先をふまえながら、施設実習の希望先を検討する。	・プリント(各施設の目的・利用者・保育士の関わり) ・プリント(施設実習希望)	・施設の目的を復習する。 ・次回の授業までに、施設実習に対するの質問等を考えておく。
		各コマにおける授業予定	・施設の目的 ・施設実習希望の説明		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	施設実習の不安や報告に対するの質問を行い解決に繋げる。	・USB(実習報告会)	・就職を見通し、施設実習へのイメージをし、希望先を考える。
		各コマにおける授業予定	・施設の目的。 ・施設実習で学んだこと。 ・主体的に取り組んだこと。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育所実習で行う手遊びや読み聞かせを発表をし、各自の課題を見つけることができる。	・プリント(振り返りシート) ・プリント(子どもになってみて)	・たくさんの手遊びを覚えスムーズにできるまで練習を行う。
		各コマにおける授業予定	・手遊び、読み聞かせ。 ・自己課題を見つける。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習先の取り組み等興味を持ち調べることで、実習への意欲を高くもつことができる。	・プリント(実習の意気込みと準備状況)	・各自の実習目標を設定する。
		各コマにおける授業予定	・実習園の保育目標や保育指針		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習に向けて気持ちを高め、たくさんのことを学びたいと意欲を持てる。	・レポート	・保育所実習の内容を振り返る。
		各コマにおける授業予定	・校内実習オリエンテーション(校章授与式、卒業生特別講義)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	その他	授業の方法	演習
科 目 名	就職対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 土曜2限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	吉崎 歌葉子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
①社会人の基礎マナーを習得し実践できるようになる ②模擬面接で正しい言葉遣いや敬語が遣えるようになる ③経験や性格を列挙するだけでなく、自己PRにつなげ履歴書に記載することができるようになる ④ニュース検定4級に受験できる理解力の修得						
《成績評価の方法と基準》						
課題への取り組み 70% (授業外課題、ワークシートなどの提出状況や取り組み状況、内容) 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『2021年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編(3・4級対応)」毎日教育総合研究所/朝日新聞社						
《授業外における学習方法》						
授業終了時に示す課題を実施しておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
社会人、職業人としての基礎(面接・試験対策・自己PR・心構え等)を学習し、保育士としてのキャリアデザインを考えていきましょう						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	就職対策の授業概要を説明し、就職や活動について具体的にスケジュールを立てることができる	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編(3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	就職対策の概要、ニュース検定対策			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	学生時代に力を入れたことや経験を文章にすることができる	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編(3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	自己分析①、ニュース検定対策			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	経験や性格を自己PRにつなげ文章にすることができる	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編(3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	自己分析②、ニュース検定対策			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	福祉人材センターやハローワークなどの施設訪問、業界説明会参加時の心構えを理解する	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編(3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	業界分析①、ニュース検定対策			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	キャリアセンター、求人情報誌、インターネットなどで求人情報を分析することができる	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編(3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	業界分析②、ニュース検定対策			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	学歴、取得資格、課外活動について整理	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	履歴書作成①、ニュース検定対策		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	履歴書を1枚完成させる	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	履歴書作成②、ニュース検定対策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	一般教養、専門分野、SPIなどの筆記試験の傾向を理解できる。	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	筆記試験対策①、ニュース検定対策		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	公務員試験の過去問の実施し、傾向を捉える。	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	筆記試験対策②、ニュース検定対策		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	作文・小論文試験の傾向を把握する	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	作文・小論文試験対策①、ニュース検定対策		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	作文・小論文試験の実施	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	作文・小論文試験対策②、ニュース検定対策		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介から自己PR発表、簡単な受け答えができるようになる	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	面接試験対策、ニュース検定対策		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を実施し合格基準に達する	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定試験直前対策①		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を実施し合格基準に達する	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定試験直前対策②		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	施設種別や施設の規模など自身の希望について述べるができる	2021年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力基礎編」 (3・4級対応)	プレゼンテーションの準備
		各コマにおける授業予定	まとめ		